

研究紀要

松 径

第 22 号

平成 26 年 3 月

鹿児島県立志布志高等学校

はじめに

校長 森永徳雄

平成25年度を振り返ると、日本では様々な出来事があった。中でもニュースで最も大きく取り上げられたのは、2020年の東京オリンピック開催ではないだろうか。長年、日本では不況が続いていただけに、このことをきっかけに景気回復が計れるのではないかと拍手喝采した人が多かった。しかし一方で、福島の復興がままならぬ段階で、オリンピックの準備に大金がつきこまれることを快く思わない人々もいた。何しろ、オリンピックは今では完全に商業化しており、金に余裕のある国でなければ開催できなくなっているからだ。私を含め、五十代後半より年齢の高い層の日本人にとって、自国で二度もオリンピックが見られるのは嬉しいことだが、一度も開催したことのない国に競り勝って二度目のオリンピックが行われるというのは、やはり問題が無いとは言えないだろう。

ところで、志布志高校では本年度も生徒達が様々な分野で活躍してくれた。水泳部・陸上部の九州大会出場、英検準1級合格、吹奏楽アンサンブル金賞受賞等々。大学入試では、難関大学といわれるお茶の水女子大学・筑波大学に合格するなど、進路面でも大きな成果を残した。このように、文武両面に亘る活躍で、地域や保護者の期待に応えてくれた。

一方で残された課題もある。特に重要な課題は、募集定員を如何に確保するかということである。本年度の一年生の募集定員は160人で、実際に入学した生徒は132人。結果としてもう13人少なければ、現在の4クラスではなく3クラスに減っていた。十分な教育を行うために、少なくとも4クラスが必要と言われており、本校はずっとその数を維持してきた。だが、大隅地区の児童・生徒数が年々減少していることもあって、4クラスを維持し続けることは難しい。さらに追い討ちをかけるように、平成26年に曾於高校(文理科)、平成27年に楠隼高校が開校することが決まっており、今後ますます定員確保が厳しくなることが予想される。104年の歴史を持ち、偉大な先輩を数多く輩出してきた志布志高校にとって、今は運命の岐路に立たされているといっても過言ではないだろう。

本年度、3教科の3人が学力向上研究員となった。そして、彼らが率先して研究授業を行ってくれたことが、各教科の活性化にもつながったように思う。また、11月に行われた学力向上研究員による公開授業では、授業の質や生徒の授業態度等で、県教委から高い評価を得られた。その時の内容等も含め、ここに、紀要「松径」第22号の発刊の運びとなった。

多忙な校務の中にあって、玉稿を寄せてくださった執筆者並びに編集の労をとってくださった先生方に敬意を表します。

目 次

はじめに	学 校 長 森 永 徳 雄	
1. 『国語総合』教科書研究	国 語 科 櫻 木 賢 一	1
2. 地形図から見た志布志の変化	地歴公民科 渡 辺 卓 郎	14
3. 学校における防犯・防災について	保健体育科 下 山 慎 吾	28
4. 英語コースについて	英 語 科 飯 田 幸 一 朗	34
5. 平成 25 年度学力向上推進プログラム学習指導案	国 語 科 山 之 口 輝 美 数 学 科 福 田 大 樹 英 語 科 宮 崎 聡	40
6. パワーアップ研修 学習指導案（教科）	保健体育科 下 山 慎 吾 芸 術 科 吉 村 奈 緒 子	53
7. ステップアップ研修 学習指導案（教科）	数 学 科 石 山 弘 二 家 庭 科 藤 野 聡 美	58
8. ステップアップ研修 学習指導案（LHR）	数 学 科 石 山 弘 二 家 庭 科 藤 野 聡 美	65
9. 平成 25 年(1～12 月)の記録	教 務 部 渡 辺 卓 郎	70
編集後記		

『国語総合』教科書研究

国語科 櫻木 賢一

<研究の概要>

1. はじめに
2. 本稿の目的
3. 新課程『国語総合』教科書の特徴
4. 成果と今後の課題

1. はじめに

平成23年度から小学校、平成24年度から中学校において実施されている新学習指導要領であるが、高等学校においては、本年度より新要領のもとでの学習指導がスタートした。

筆者は、平成22年～23年度までの2年間、学校を離れ、鳴門教育大学大学院で研修の機会を得た。ここでは、新学習指導要領の改訂を念頭に置き、「高校入門期における古典指導」をテーマに、中高の古典学習を体系的にとらえなおして生徒一人一人の古典学習に対する興味・関心を絶えず喚起し続ける指導のあり方について研究を進めた。その中で、今回の学習指導要領改訂の流れを踏まえ、「国語総合」の古典分野に焦点を絞り、1年生1学期の学習計画案を作成するに至った。

筆者は、一昨年4月から研修前に勤務していた高等学校へ戻り、古典を中心に教科指導にあっている。今年度は3学年を主に担当しており、大学院で作成した学習計画を、実際の授業で用いることがなかなかできていないものの、授業の中に「表現する言語活動」をできる限り取り入れ、古典世界と現代社会とのつながりを意識した授業を試みている。

その一方で、すでに始まった新課程に則した学習指導、とりわけ小学校、中学校で培ってきた基礎的な国語力を、高校入学後、全ての高校生が履修する「国語総合」という科目によってブラッシュアップすることを目的とした指導が急がれている。

何はともあれ、新学習指導要領のもと「脱ゆとり世代」の学習者が、高校に入学してくるまでの残された時間を使って、それまでの学習履歴を踏まえた学習指導計画を立てることが、現在の大きな課題の一つとなっている。

2. 本稿の目的

今回の指導要領改訂に伴う、国語科における大きな柱として「言語活動の充実」と「伝統的な言語文化の指導の重視」の2点が挙げられるのは周知のとおりである。

「はじめに」でも述べたように、発表者は今回の改訂の要点を踏まえ、学習指導計画を立案した。しかしその一方で、この学習指導計画案が新課程を想定しての計画であるにも関わらず、参考にした使用テキストが旧課程用のものであったため、教科書に沿って計画を

立てる際、古典学習の中に言語活動を取り入れたり、近代以降の文章で書かれた古典に関わる教材などを取り上げたりする際、教科書以外からテキストや題材を集めなければならなかった。この点において、限られた時間の中で効率よく学習指導計画を立てることを考えた場合、教科書教材をベースに、「言語活動の充実」「伝統的言語文化」を取り入れた学習指導計画を立てることがより現実的であると考えられる。

そこで今回の研究では、平成 25 年度用の「国語総合」の教科書として発行される教科書のうち、実際に手元に届いた 9 社 28 冊をもとに、取り上げられている教材や内容の取扱いについての分析を試みることによって、新課程下における「国語総合」の教科書の特徴を明らかにしていきたい。中でも今回の学習指導要領改訂に携わった文教大の鳴島甫や信州大の藤森裕治がその編集委員に名を連ねている大修館書店の「国語総合」の教科書に注目し、実際の教科書に新指導要領の改善点が、どのような形で反映されているかを検討していくことにより、国語総合の学習指導計画の立案に役立てていきたいと考えている。

3. 新課程『国語総合』教科書の特徴

3.1 学習指導要領改訂のポイント

繰り返しになるが、今回の指導要領の改訂は、平成 20 年 1 月の中央教育審議会答申において、国語科改善の基本方針が示され、これに基づいたものとなっている。答申の冒頭では次のように書かれている。

国語科については、その課題を踏まえ、小学校、中学校及び高等学校を通じて、言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活ではたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。

特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。

(中央教育審議会答申 (2008 年 1 月))

この答申に示された改善点のうち、「国語総合」に関する記述は次の 3 点にまとめられる。

- 1 「国語総合」を共通必修科目とする。
- 2 言語活動の充実を図る。
- 3 小中学校同様に[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]を新設し、古典教育の充実を図る。

3.2 新課程用「国語総合」教科書教材の特徴

あとに示す表 1 は、新学習指導要領に基づいて編集された高等学校「国語総合」の教科書 31 冊の一覧である。今回はこのうち実際に採用見本として手元に届いた 9 社 29 冊（現代文と古典の分冊は別にカウント）を分析の対象とした。

現行の教科書に比べると冊数自体は30→31と大きな変化は見られないものの、現代文と古典が別冊になったものが5→8とやや増えている。これは、国語総合の授業の実態が現代文（表現）と古典とを完全に切り離した形で行われていることが影響していると考えられる。「国語総合」は、昭和57年施行の学習指導要領で「国語Ⅰ」が「現代国語」と「古典」を統合した形で新設されて以降、「国語Ⅰ」から「国語総合」へ科目名の変更はあったものの、現代文と古典とが総合化された必修科目として30年もの間続いている。しかしながら授業は旧来の「現代文（現代国語）」と「古典」とが切り離された形で行われており、そのまま2年次以降の「現代文」「古典」という別々の科目へと引き継がれているのが実態である。「国語総合」教科書の分冊化は、こういった学校側の事情に沿ったものであると言える。また、分冊化した方が、合冊版に比べてページ数にして約1割程度増えていることも分かる。少しでも多くの教材を載せて、学校の幅広いニーズに応えたいという出版者側の意図を見てとることができる。

次に、取り上げられている教材について見ていきたい。現代文分野において、まず評論については、山崎正和『水の東西』に代表されるような、旧課程から引き続き採録されている著者の作品に加え、鷺田清一や姜尚中、内田樹といった近年の大学入試頻出の著作が数多く採り上げられている。中でも今回新しく教科書に登場してきた福岡伸一の著作は全体の約40パーセントに当たる10冊に掲載され、特徴の一つとなっている。大学入試を意識した教材構成は、発行者から出される教科書の案内からも読み取ることができる。

「大学入試を視野に入れた定評ある作品群です」（教育出版「国語総合」）

「入試頻出の著者による、論理展開のしっかりした評論文で、読解の基礎を築きます」
（明治書院「精選 国語総合 現代文編」）

「文章の読み方を学べる教材、入試頻出作家による題材、様々なテーマの題材を豊富に収録」
（数研出版「国語総合現代文編」）

「定番教材はもちろん、鷺田清一、福岡伸一、香山リカ等入試頻出の筆者による質の高い評論文を多数収録」
（大修館書店「国語総合現代文編」）

このように、1年次から、徐々に入試レベルの評論文に慣れさせたいという指導者側の思いに出版者側が答えた形となっている。なお大学入試を意識したこの傾向は、比較的ページ数に余裕のある分冊版に多く見られる。

小説教材について特筆すべきは、芥川龍之介『羅生門』がすべての教科書に掲載されている点であろう。先述の『水の東西』や2年次で学習することの多い中島敦『山月記』などと並び高等学校の国語科において定番教材として定着している『羅生門』であるが、全ての高校生が履修する「国語総合」で全ての教科書に採録されているということから、高等学校で学ぶ全ての生徒が『羅生門』を学ぶということになった。つまり『羅生門』はこれからの高校生にとって必履修教材ということになる。『羅生門』は平成5年版「国語Ⅰ」の教科書23冊中14冊に収められており、この間に『羅生門』の定番教材化が進んでいることが分かる。しかし全ての高校生が学ぶということの意味はこれまでの「定番教材」という括りとは一線を画す。この要因の一つとして、新指導要領との関係をあげることができるのではないだろうか。『羅生門』の教材的な価値については、関口安義（1992）が次の

6 点にまとめている。

- 1 完成度の高い小説
- 2 起承転結の結構
- 3 古典と近代文学
- 4 文学言語の教育
- 5 ことば・文章・文体の教育
- 6 批評意識の養成

(関口 (1992) p. 156)

このうち「3 古典と近代文学」、「6 批評意識の養成」が新指導要領との関係が深い項目になる。「古典と近代文学」については、芥川が『羅生門』を『今昔物語集』をベースに書いていることから、学習指導要領「国語総合」2 内容C「読むこと」の(2)の言語活動例のエ「様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。」に照らし合わせて、古典で描かれた話が近代以降の文章にどのように描き直されていったかについて視点を定めて読み比べを行うといった「表現する言語活動」を取り入れた授業の展開が予想される。(大修館書店の「国語総合」の教科書3 誌では『羅生門』のあとに「今昔物語集」の原文が載っている。)『羅生門』に関してはこれまでも様々な授業実践が展開されてきた。しかし今回「読み比べ」「書き換え」といった言語活動例が指導要領中に明記されたことに伴い、今後、これを古典と結びつけて読みの深化を図るような授業が全国の教室で展開されていくに違いない。同様に「批評意識の養成」についても、今回の改訂の柱として考えられている PISA 型読解力、批判的思考力を育てることと結びついた教材ということが出来る。つまり旧来より定番教材であった『羅生門』の教材価値は、今回の改訂によりさらに高まり、これが全ての教科書に採り上げられる要因となったと考えられるのではないだろうか。

表1 新課程用「国語総合」教科書一覧

	発行者	記号・番号	教科書名	ページ	主な著作者	対象
1	東京書籍	国総301	新編国語総合	382	三角洋一 池内輝男 小町谷照彦	○
2		国総302	精選国語総合	438		○
3		国総303	国語総合 現代文編	254		○
4		国総304	国語総合 古典編	206		○
5	三省堂	国総305	高等学校国語総合 現代文編	248	中冽正堯 岩崎昇一	○
6		国総306	高等学校国語総合 古典編	184		○
7		国総307	精選国語総合	400		○
8		国総308	明解国語総合	344	中冽正堯 三浦和尚	×
9	教育出版	国総309	国語総合	376	井口時男 影山輝國 室城秀之	○
10		国総310	新編 国語総合 言葉の世界へ	368	井口時男 長沼行太郎 室城秀之	○
11	大修館書店	国総311	国語総合 現代文編	285	北原保雄	○
12		国総312	国語総合 古典編	207		○
13		国総313	精選国語総合	388		○
14		国総314	新編国語総合	389		○
15	数研出版	国総315	国語総合 現代文編	254	坪内稔典	○
16		国総316	国語総合 古典編	174		○
17		国総317	高等学校 国語総合	374		○
18	明治書院	国総318	高等学校 国語総合	412	中島国彦 久保田淳 中村 明	○
19		国総319	精選国語総合現代文編	264	中島国彦 中村明	○
20		国総320	精選国語総合 古典編	186	久保田淳	○
21	筑摩書房	国総321	精選国語総合 現代文編	288	安藤宏	○
22		国総322	精選国語総合 古典編	192	鈴木日出男	○
23		国総323	国語総合	448	紅野謙介 鈴木日出男	○
24	第一学習社	国総324	高等学校 新訂国語総合 現代文編	270	東郷克美 伊井春樹	○
25		国総325	高等学校 新訂国語総合 古典編	166		○
26		国総326	高等学校 国語総合	402		○
27		国総327	高等学校 標準国語総合	386		○
28		国総328	高等学校 新編国語総合	268		×
29	桐原書店	国総329	探求国語総合 現代文・表現編	257	亀井秀雄 中野幸一	○
30		国総330	探求国語総合 古典編	185		○
31		国総331	国語総合	411		○

3. 3 教科書中に見られる「言語活動の充実」

ここからは、「言語活動の充実」という観点から、教科書を見ていきたい。言語活動については今回の改訂で各教科等においてその充実を図ることが総則に明示され、国語科はその中心になる教科としての役割が望まれている。藤森祐治（2010）は、「言語活動」についてそのねらいと性質によって3つに分けられるとしている。

- 1 基礎・基本を確実に身に付ける言語活動
- 2 適切に関わる力を育てる言語活動
- 3 想像し創造する感性を磨く言語活動

（藤森（2010）pp. 54-56）

このうち高等学校においては「2 適切に関わる力を育てる言語活動」「3 想像し創造する感性を磨く言語活動」の二つが特に重要であると考えられる。

「2 適切に関わる力を育てる言語活動」について、藤森は「場面や目的に応じて相手の伝えたいことを的確に把握し、適切に表現する力を磨く言語活動である。」とし、その具体例として、新聞の投書を利用して自分の考えを表現するだけでなく、交流を行うことにより批判的思考力を用いることができるとしている。また、これら一連の活動をまとまりのある単元として組み立てることで、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての領域を含むことになることも述べている。

「3 想像し創造する感性を磨く言語活動」については、藤森は「生徒の想像力を活性化し、自ら学ぼうとする意欲と情熱と自己効力感を持てるような言語活動である。」とし、ここで重視される課題探究型の学習活動を「国語総合」で経験することが、「現代文」「古典」といった選択科目に生かされることになることも述べている。

また、課題探究型の言語活動に関連して、「伝統的な言語文化」の取り扱いについても次のように補足している。

「国語総合」における「伝統的な言語文化」は「読むこと」はもとより、すべての領域で指導することが求められている。特に古典を素材にして日本文化を海外との関係から捉えようとする姿勢が強調されている。こうした点を踏まえ、想像し創造する言語活動では、積極的に古典を取り入れるように配慮したい。

（藤森（2010）p. 56）

古典の授業に「表現する言語活動」を積極的に取り入れることの有用性については、拙稿「高等学校における入門期の古典指導研究-過去の実践を振り返って-」でも述べたように、学習者の古典に対する意欲・関心は確実に上昇すると考えている。ここで得られた意欲・関心をどのように「読み」の深化へとつなげるかが大切となると言える。

では、実際の教科書において、このような言語活動はどのような形で見られるのだろうか。

教科書中の位置づけについては大きく二つに分けることができる。一つは自然な学習活動が展開できるように、関連の深い単元の末尾に位置づけているもの、もう一つはさまざま

まな学習場面で随時参照できるように教科書巻末にまとめて位置づけているものである。

このうち藤森祐治や鳴島甫がその編集に携わった大修館書店「国語総合現代文編」、「精選国語総合」は巻末型の構成で「表現の窓」として10項目を示し、言語活動重視の方針を明らかにしている。同じ大修館書店発行の旧課程用「国語総合現代文編」（分冊版）と比較してみると、こちらは言語活動に関する項目が各単元の末尾に位置づけられる形となっており、その項目数も7項目と少ない。他の新課程用の教科書においても言語活動もしくは表現として掲げられる項目は5から7項目がほとんどで、大修館書店発行の教科書が、いかに「言語活動」を重視しているかが分かる。また、上の表2の「資料をもとに文章を書こう」は、グラフを読み取って書く、資料をもとに文章をまとめるといった活動になっている。これはいわゆるPISA型の学力を意識していると思われる。

また、これとは別に古典の中にも「言語活動」を置いている教科書も少なくない。例えば第一学習社「高等学校新訂国語総合 古典編」では単元の中に言語活動として、『竹取物語』の求婚譚を調べる」「読み比べる・大和物語－沖つ白波」「古典の和歌を現代の言葉で書き換える」「故事成語の由来と意味を調べる」が設定されている。「…を調べる」という活動は、その内容を報告・発表したり、その内容を聞いたりすることにつながる（学習指導要領「国語総合」A「話すこと・聞くこと」（2）言語活動例イに該当）。「読み比べ」や「書き換え」については、「読むこと」の指導事項の冒頭に「近代以降の文章（明治時代以降に書かれた文章）ばかりでなく、古典にも該当する。」とし、古典を読むことへの意欲を喚起し、古典を学ぶことの意義を認識させるためにも、近代以降の文章と同様の言語活動を行うことの重要性が明示されており、これを受けてのものと思われる。

以上のように、現代文、古典を問わず今回の改訂を受けて、「言語活動の充実」を意識した単元、項目を教科書中に見ることができる。しかしながら、大切な点は、それらの言語活動が、「どのような力を生徒に付けさせるために用いられているのか」という意識を指導者側が明確に持ち、その方法が最も適切であったかを検証していくことにあるのではないだろうか。そのためにも、学習指導要領にある言語活動例だけでなく、学習者の実態に沿った言語活動を行うことが重要となるだろう。

表2 大修館書店「国語総合」中の「表現の窓」一覧

国語総合 現代文編/精選国語総合	新編国語総合
① 話すこと・聞くことの基礎	① 対話から始めよう
② 書くことの基礎	② 感想をもとに話し合おう
③ 自分の考えを話そう	③ 調べたことを報告しよう
④ 手紙を書こう	④ 手紙を書こう
⑤ 調べたことを報告しよう	⑤ 司会者を立てて話し合おう
⑥ 意見を論理的にまとめよう	⑥ 自分の考えを話そう
⑦ 司会者を立てて話し合おう	⑦ 資料をもとに文章を書こう
⑧ 資料をもとに文章を書こう	⑧ アンソロジーを作ろう
⑨ 発表の方法の進め方	⑨ 本のPOPを作ろう
⑩ 本のPOPを作ろう	⑩ 意見を論理的にまとめよう

3. 4 教科書中に見られる「古典教育の重視」

「言語活動の充実」とともに今回の改訂の大きな柱となる「古典教育の重視」については、「国語総合」での「[伝統的な言語文化とその特質に関する事項]の指導に当たって配慮すべき事項」では次のように述べられている。

古典を読み味わうためには、古典を理解するための基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けていなければならないことは言うまでもない。しかし、従来その指導を重視しすぎるあまり、多くの古典嫌いを生んできたことも否めない。そこで、指導においては、古典の原文のみを取り上げるのではなく、教材にも工夫を凝らしながら、古人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、それを広げたり深めたりする授業を実践し、まず、古典を学ぶ意義を理解させ、古典に対する興味関心を広げ、古典を読む意欲を高めることを重視する必要がある。そして、そのような指導を通して、古典を理解するための基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせていくことが大切である。

(文部科学省 (2010) p. 38)

これまでも教科書中に古典にまつわるコラム、古典文法や漢文の訓読に関するコラムなども掲載され、学習者の古典に対する興味関心を喚起するのに役立ってきた。新課程用の教科書においても、古典に親しむことを目的とし、様々な工夫を凝らしたコラムが多く掲載されている。

しかし今回の改訂を受けて、古典の教材として「古典に関連する近代以降の文章を含めること。」という文言が明記されたことにより、教科書でもこれに関連する単元や教材が新設されることとなった。あとに示すの表3は新課程用「国語総合」の教科書中に見られる「古典に関する近代以降の文章」をまとめたものである。これによると、特別に項目を設けておらず、従来のコラム形式の文章でこれに対応させている教科書も見られるものの、「古典に関連する近代以降の文章」については各教科書1編から3編程度であることが分かる。これに対して、学習者の学習状況に合わせて3種類の教科書を用意している大修館書店から発行された教科書は、その難易度が下がるほど多くの「古典に関する近代以降の文章」の割合が増えている。特に「新編国語総合」では、7編の文章を用意し、学習者の実態に合わせて、指導者側が選択指導できるように配慮してある。「新編国語総合」ではこれ以外にも「古典の窓」という従来通りのコラム形式の文章を4編（「精選国語総合」では5編）載せ、「親しみやすい古典」をテーマに指導要領の趣旨に沿った教材の編成になっていることが分かる。

中でも「新編国語総合」「精選国語総合」にある、狂言師野村萬斎氏による「古典の魅力」という教材（資料1）は、古典入門期の高校生が、実際の古典教材に入る前に触れるところに配置されている。ここでは、学習者が古典に対して抵抗感を持つ前に、幼い頃からよく知っている野村萬斎が、「繰り返し読んで慣れることで、自然と分かるようになる」、「古典世界の「余白」の部分自分のイメージーションでもって埋めることができる」、「人生の節々で、自分を反映する鑑としての要素が古典にはある」といった言葉で、これから古典を本格的に学習するに当たっての心構えを、自らの経験をもとに説得力のある文章で説いている。また、古典を学習することは、日本の伝統や文化を学ぶこと以外に、世界的視

野に立って国際社会の貢献しようとする態度の育成にもつながる。これは、学習指導要領「国語総合」(5) [伝統的な言語文化とその特質に関する事項]のウ「教材選定の具体的な観点」の(ケ)「広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を高めるのに役立つ」という項目に該当する。これにより学習者それぞれが古典を学ぶ意義を確認することができ、自然な形で古典の学習をスタートできるものとする。

表3 古典に関連する近代以降の文章一覧

	発行者	教科書名	教材名	著者名	
1	東京書籍	新編国語総合	(古典にまつわるコラム2編)		
2		精選国語総合	古文の広がり	堀井令以知	
3		国語総合 古典編	古文の広がり	堀井令以知	
4	三省堂	高等学校国語総合 古典編	人待つ女ー井筒ー	馬場あき子	
5		精選国語総合	(古典にまつわるコラム10編)		
6		明解国語総合	筒井筒についてー『恋する伊勢物語』より	依万智	
7	教育出版	国語総合	(古典にまつわるコラム3編)		
8		新編 国語総合 言葉の世界へ	(古典にまつわるコラム2編)		
9	大修館書店	国語総合 古典編	「和歌」という言葉の意味	大岡信	
10			精選国語総合	桃いろいろ	一海知義
				論語 学而第一	桑原武夫
		古典の魅力		野村萬斎	
「和歌」という言葉の意味		大岡信			
勉強		一海知義			
論語 学而第一		桑原武夫			
11		新編国語総合	古典の魅力	野村萬斎	
			なんてステキな光景なの！ ー春はあけぼの	山口仲美	
			壇之浦の戦い ー『平家物語』を読む	永積安明	
			百人一首	大岡信	
			漢文のすすめ ー未来を考えるヒント	加藤徹	
	春眠暁を覚えず		一海知義		
12	数研出版	国語総合 古典編	友人の条件	松村栄子	
弟子			中島敦		
13	明治書院	高等学校 国語総合	友人の条件	松村栄子	
弟子			中島敦		
14	明治書院	高等学校 国語総合	月からの迎え	訳：江國香織	
「自分のために詠まれた歌」が、必ずある			小川洋子		
15	筑摩書房	精選国語総合 古典編	月からの迎え	訳：江國香織	
「自分のために詠まれた歌」が、必ずある			小川洋子		
16	筑摩書房	精選国語総合 古典編	転換期の文学ー『平家物語』の魅力	兵藤裕己	
17			国語総合	物語を読むー『竹取物語』 転換期の文学ー『平家物語』の魅力	兵藤裕己
18	第一学習社	高等学校 新訂国語総合 古典編	(古文にまつわるコラム2編)		
19		高等学校 国語総合	(古文にまつわるコラム2編)		
20		高等学校 標準国語総合	(古典にまつわるコラム4編)		
21		高等学校 新編国語総合	(古文にまつわるコラム1編)		
22	桐原書店	探求国語総合 古典編	言霊	犬養孝	
23			友情	松浦友久	
23	桐原書店	国語総合	言霊	犬養孝	
			友情	松浦友久	

4. 成果と今後の課題

今回の研究の成果として、新指導要領用「国語総合」の教科書の特徴である以下の2点を挙げる事ができる。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 指導要領改訂に沿った教科書教材の充実2 教科書に及ぼす大学入試の影響 |
|---|

繰り返しになるが、今回の国語科改訂のポイントである「言語活動の充実」「古典教育の重視」の2点については、どの教科書にもこれが反映される内容となっていた。特にこれまでの指導要領では見られなかった「近代以降の古典に関する文章を取り入れること」という点において、各者とも様々な教材や項目を用意し、学習者の古典学習に対する興味関心を十分に喚起する内容となっていた。中でも、当初想定していたとおり、指導要領改訂に携わった、鳴島甫、藤森祐治が直接編集に関わった大修館書店発行の教科書は、その改訂のポイントが色濃く反映された内容となっていた。特に、「古典教育の重視」については、他の教科書に比べ、内容分量とも充実した構成であった。

一方で、どちらかと言えば従来の国語教科書の伝統を継承し、大きな変更の見られない教科書も見られた。これについては、わたしたち指導者側が、準備された教材をどのように調理していくかという力量が問われることとなる。いずれにせよ、今回の改訂を受け、新しい指導要領の内容をよく理解した上で、教科書教材をどのような形で学習者に還元していくかを考えていかねばならないということになる。

2については、「3. 2 新課程用「国語総合」教科書教材の特徴」で、「総合」という科目である「国語総合」が、学校の実態では「現代文」と「古典」を別科目のように扱う状態が続いていることを指摘した。これは指導要領が変わっても、授業そのものが大きく改善されず、特に古典においては、いわゆる訓詁注釈型の授業形態が続いていることにもつながっている。発表者はこの原因を、大学入試との関係にあるのではないかと考えている。

大手予備校の河合塾は今回の改訂と2016年度の大学入試センター試験の「国語」に関する出題教科・科目（案）の発表を受けて次のように分析している。

新指導要領において「国語総合」のみが必須となることから、センター試験も「国語総合」の内容を出題範囲とする「国語」のみの出題となった。近代以降の文章、古典（古文、漢文）を出題するという表記は、現行の内容を踏襲するものであることを示唆しており、また現行の（「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の領域の内容を重視する）「国語表現Ⅰ」に特徴付けられる表現効果に関する設問も「国語総合」の学習で対応できる内容であるため、おそらく、「センター試験」の「国語」は大きな変化はないと思われる。

（河合塾（2012））

つまり高等学校において古典を学習する理由の一つが大学入試のためであることを考え

た場合、主に大学進学を目的とした高校において、その大学入試自体に大きな変化が無い限り授業の形を目に見えて変える必要性がない。このため、教科書も指導要領の改訂に大きく左右されることなく、入試頻出の著者の作品を数多く掲載し、読解の基礎を築くための教材を増やすことが重視され、より分量を確保できる分冊が増加の傾向にあるといえる。

一方、今回の改訂では、旧課程において「国語総合」と「国語表現Ⅰ」からの選択履修であったのを改め、「国語総合」を共通必修科目としたことも大きな変更点のひとつであった。この理由としては、ほとんどの学校で「国語総合」を選択しているという現状に照らし合わせたことに加え、「国語表現Ⅰ」を選択した場合、現代文分野の評論や小説、古典分野の古文漢文を全く学習しないままで高校を卒業できるという問題点を含んでいたことが考えられる。これについて北原保雄(2012)は次のように述べている。

いよいよ高校においても新学習指導要領による教育が始まる。そして、国語科では「国語総合」が共通必修科目になる。現在の指導要領では、「国語総合」と「国語表現Ⅰ」が選択必修科目で、「国語表現Ⅰ」を選択した場合、標準単位数は2だ。わずか2単位だけで、しかも「国語表現」だけで国語力の向上は期待できるか。はなはだ疑問だった。

(北原 (2012) p. 2)

北原保雄のこの言葉は、わたしたち国語教師の思いを代弁している。前回の改訂の柱の一つであった国語科への選択必修科目の導入は継続されることなく今回の改訂によって変更を余儀なくされた。北原保雄は、続けてこうも述べている。

今回の改定でも共通必修は4単位だけだ。国語力の低下が叫ばれながら、これだけの時間数でどれほどの指導ができるのか。

(北原 (2012) p. 2)

この言葉を真摯に受け止め、限られた時間の中で、効率よく国語の力を身に付けさせることが、わたしたち指導者にとって大きな課題と言えるだろう。

「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」という意識を持ち、生徒の実態を指導者側がしっかりと把握し、身に付けさせたい国語の力に、最も適した言語活動を用いることを第一に、さらには「国語総合」である以上、「現代文」と「古典」のつながりを感じさせるような授業を生徒に提供していきたい。そのために、これまで以上に教科書教材の内容を十分に吟味することがこれからの教師には望まれている。

<引用・参考文献>

中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について
(答申)』(2008年、文部科学省)

文部科学省『高等学校学習指導要領』(2009年)

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』(2010年、教育出版)

関口安義「教材としての『羅生門』」(『「羅生門」を読む』、1992年、三省堂、pp.150-170)

藤森裕治「これからの授業づくりのポイント」(鳴島甫、高木展郎編著『高等学校新学習指導要領の展開 国
語科編』、2010年、明治図書、pp.54-56)

河合塾「高等学校学習指導要領分析」(2012年1月、www.kawai-juku.ac.jp/kawaijuku/analysis/)

北原保雄「新学習指導要領に思う」(『国語教室』95、2012年、大修館書店、pp.2-3)

※ 本稿は、第27回鳴門教育大学国語教育学会で発表したものを、一部加筆修正したものである。

地形図から見た志布志の変化

地歴公民科 渡辺卓郎

1 はじめに

一般の地図の基本となる地形図は戦前は陸軍陸地測量部が行い、軍事施設などの情報は表示されず一般利用も難しかった。戦後は国土地理院（現国土交通省所属）が発行する 5 万分の 1 地形図と 2 万 5 千分の 1 地形図が日本全土をカバーする地図として市販されている。しかし財政難により 2 万 5 千分の 1 地形図の全国整備が終了したのは 1983（昭和 58）年であった。

なお 2 万 5 千分 1 地形図の作成方法については、3 色刷のものが 1958（昭和 33）年から始まり、1964 年から本格的に普及してきた。今後は多色刷りものに移行しオンラインでは「電子地図 2500」も供給されている。

一方旧版地形図と呼ばれるものは現在発行していないが、国土地理院では、測量法第 28 条（測量成果の公開）の規定に基づいて、旧版地図の有料配布を行っている。具体的には国土交通省オンライン申請システムによる申請届出及び情報サービス課と関東地方測量部が受付窓口になっている。この旧版地形図を見ることによって過去から現在までの地域の変化が知ることができる。さらに地理 B をはじめセンター試験等でも新旧の地形図の比較が出題されることもある。今回は志布志高校周辺の地域変化を中心に図表と統計資料を中心に述べてみたい。

2 志布志の 5 万分の 1 地形図から読み取る変遷

1) 1904（明治 37）年の志布志（図 1：5 万分の 1 地形図）

図 1 は最初の志布志の 5 万分 1 地形図として発行されたものである。前川の河口には権現島があり、志布志も東志布志村と西志布志村に分かれている。これは旧志布志郷^{*1}（砧田村、志布志町、夏井村、安楽村、内之倉村、田之浦村、伊崎田村、野井倉村、蓬原村、原田村、野神村、月野村）は、旧郷を一村とする県の方針により 1884（明治 17）年に志布志村と発足した。志布志村は日向地誌^{*2}によると戸数 3,521、男子 7,437 人、女子 7,339 人と合計 14, 776 人と推計されている。

しかし発足当時から区域が広く、砧田の村役場が村の南東部に偏ることもあり、北西部の農村には分村を希望する空気が強かった。1889（明治 22）年に市町村例が全国に施行され志布志村は発足したが、郷士制度の影響による支配・被支配階層の対立感情も残って

*1 薩大日地理纂考 27 巻によれば、1871（明治 4）年に志布志郷の人口は士族 1643 人、平民 5052 人で、男女別に合計すると男子 3524 人、女子 3171 人の計 6695 人となっていた。

*2 曾於郡は古代から日向国に属し、鹿児島県と宮崎県の県境が現在のようになったのは 1883（明治 16）年以降である。また日向地誌は日向の人、平部嶮南（志布志町史 p 43 より）が 1880（明治 13 年）の資料である。

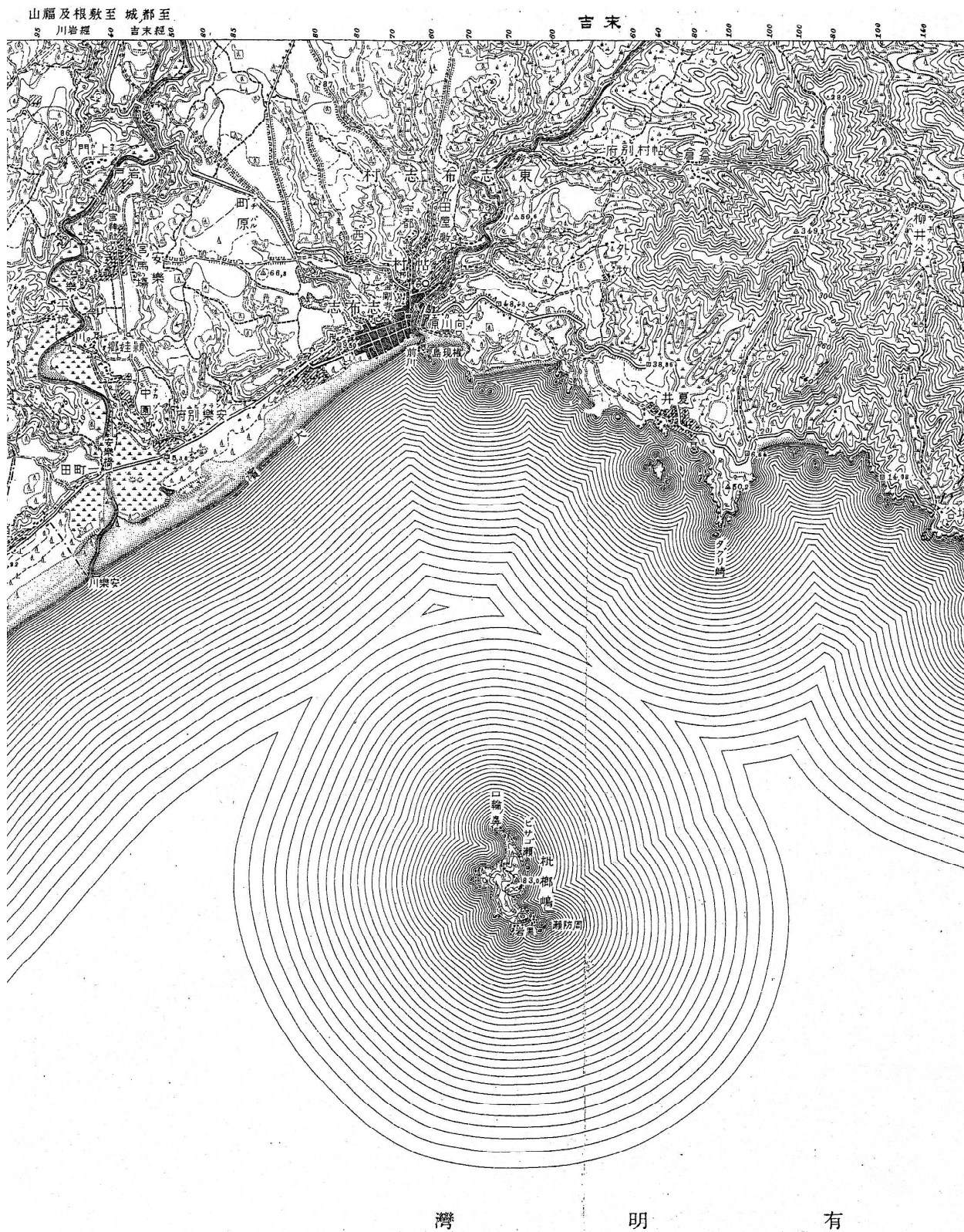
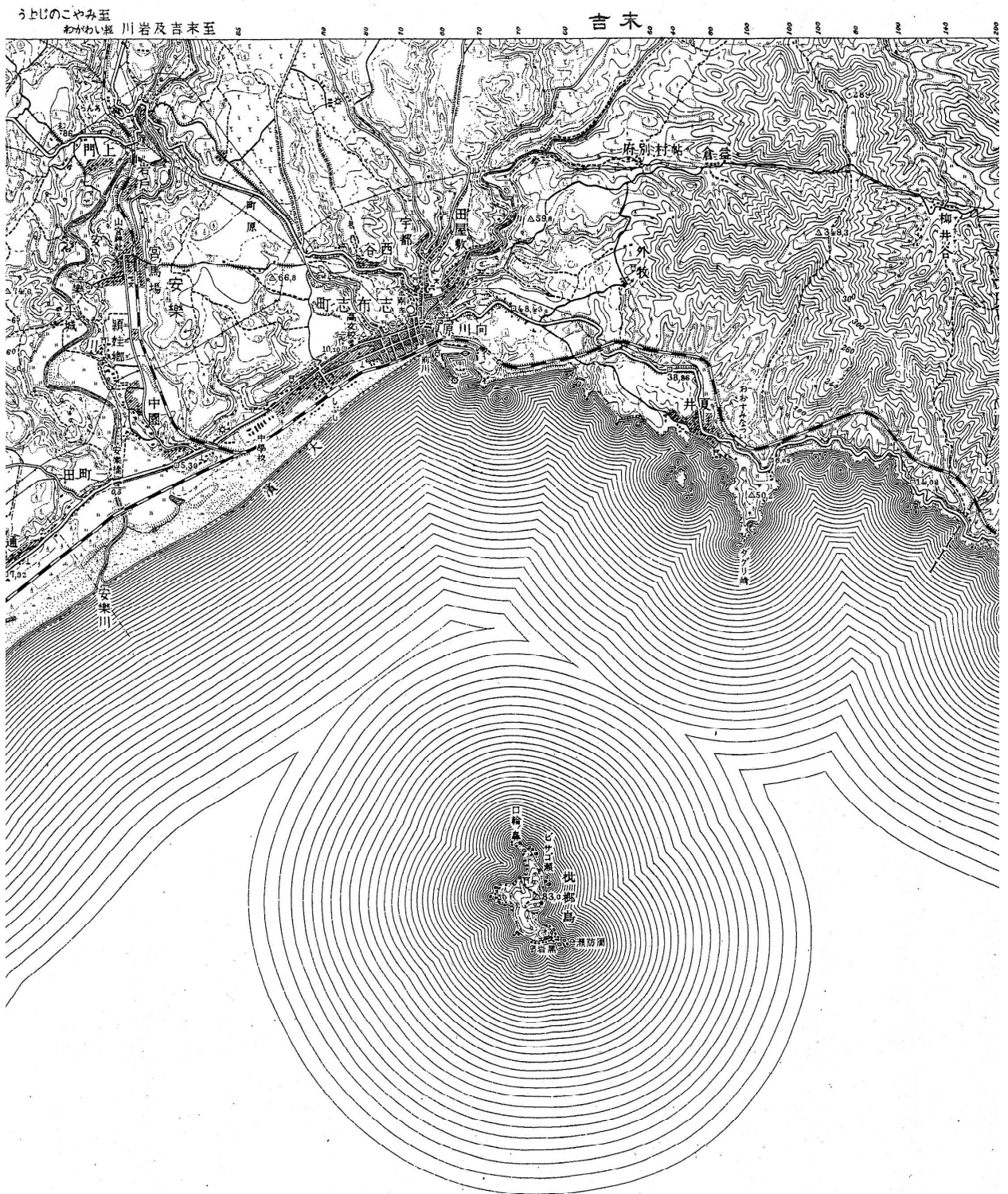


図1 1904（明治37）年の志布志（5万分の1地形図より）



有 明 湾 (志 布 志)

図2 1932(昭和7)年の志布志(5万分の1地形図より)
 鉄道のみ1935(昭和10)年と1949(昭和24)年に資料修正

おり，地形的な理由から分村運動が起こった。1891（明治 24）年には月野村と西志布志村（伊崎田村，野井倉村，野神村，原田村，蓬原村）が分村^{*3}した。東志布志村は以後村域に変動はなく 1913（大正 2）年に志布志町政施行を迎えた。西志布志村は野方村の一部の山重地区を合併して 1958（昭和 33）年有明町として町政施行を迎えた。

東志布志村の役場の位置は藩政当時の地頭館そのままの位置である。夏井集落と志布志の中心部である前川の間には，従来の旧道と新道も見ることができる。志布志町史によれば，鹿児島県が 1887（明治 20）から志布志・福島間の宮崎県境までの路線を馬車の往来に支障のないよう拡幅し 1896（明治 29）年までに完了していた。

2) 1932（昭和 7）年の志布志（図 2：5 万分の 1 地形図）

図 1 との変化は，東志布志村が志布志町へと町制を施行した。当時 1912（大正元）年に加治木町と鹿屋町が発足したことを受けて，1913（大正 2）年に東志布志村から志布志町へと町制を施行した。当時の人口は 13,685 人であった。

1920 年（大正 9）年から国勢調査が始まり，その後志布志町は有明町・松山町と合併したので図 3 の人口推移を 2010（平成 22）年まで見てみると，これ以後志布志町の人口は増え 1955（昭和 30）年に約 2 万 7 千人になりピークに達している。市庁舎の位置は金剛寺の近くであり，諏訪町の諏訪神社跡に 1912（明治 45）年に新築された。

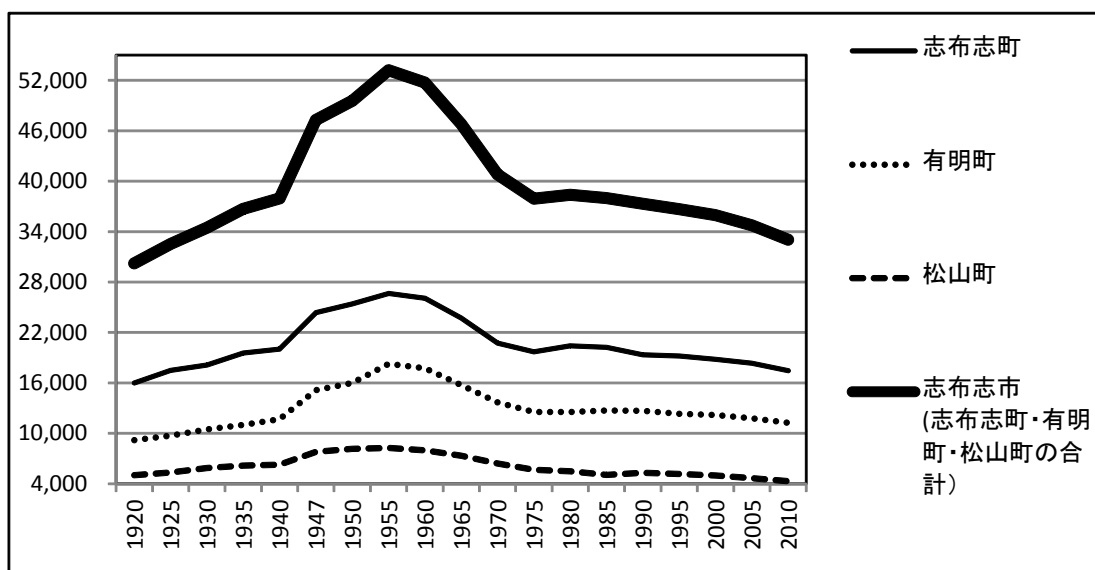


図 3 志布志市の人口推移（縦軸は人，横軸は西暦）

国勢調査より作成

図 2 では志布志駅があり，宮崎県方面と鹿屋方面への鉄道が記載されているが，それは 1935（昭和 10）年と 1949（昭和 24）年に資料修正したものである。志布志駅は志布志線が開通した 1925（大正 14）年に，人家もまばらだった海辺の浜地を新町通から海岸低地

* 3 月野村の分村に関しては旧志布志郷士の横暴圧迫にたえかねて納税・賦役等を拒否して志布志が分村を認め，西志布志村は地形的な理由により，菱田川が貫流し橋梁も不備で渡し船を利用していたためと「縣市町村変遷史」に記載されている。

にあった崖を崩して新町より平地にして、駅前に幅 20 m の大通りを南北に貫通させた。

志布志駅の北側に高女高と西側に中学校が表記されている。志布志中学校^{*4}に関しては1907（明治 40）年に県は第 6 中学校として予算を計上したが設置場所は当局に一任したため、激しい誘致活動が各地で広げられ人口動態と地理的条件を勘案して曾於郡新設を内定した。

しかし各村の誘致活動があるなかで、当時の坂元知事一行が鹿屋・串良・大崎等の候補地を視察した上で決定した。設置場所は県の意向と地価の問題から営林署の許可を受け保安林を含む安楽水留の約 12.5ha を払い下げられた。敷地の整地作業は各戸割当の奉仕作業でおこなれたが、敷地が砂地であるため作業は容易でなかった。六月坂台地の西側を削り落とした土を人力で運び、1909（明治 42）年開校を迎えた。入学試験では算術・国語・作文・習字があり、受験生 311 人のうち 96 人が合格入学した。

高女高とは県立志布志高等女学校のことである。前身は志布志女子実業補習学校であり、志布志中学校が開校し女子教育の必要性から女学校が検討されたが、その後の風水害、1914（大正 3）の桜島降灰による被害等で遅れ、1917（大正 6）年に町立の志布志女子実業補習学校が開校した。校舎は志布志女子小学校正門（現在の志布志小学校）の右側にあった。開校 3 年後は関係者の要望から高等女学校として、1920（大正 9）年に鹿児島県志布志実業高等女学校となった。

その後 1923（大正 12）年には志布志高等女学校となり、校舎も図 2 の旧大慈寺本堂跡に 1925（大正 14）年に移転した。1923（大正 12）年には鹿児島県では従来^{*5}の郡制の廃止に当たり、郡立の高等女学校及び実科高等女学校を一郡一校に限り県立へ移行した。志布志町も運動したが 1926（大正 15）年末吉高女の県立移管となった。その後志布志町は何度か財政負担が大きい志布志高女の県立移管をもとめ、11 年後ようやく、県議会で紛糾

*4 当時県下で 5 校の旧制中学（現在の鶴丸高校、甲南高校、川内高校、加治木高校、川辺高校）があったが、その 6 番目として設置された。完成当時は敷地 11 万 4074 m²、建坪 7220 m²であったが、中学校から汀（海岸）までの浜地はその後専用演習地となり日本一の立地ともいわれた。また当時大隅半島側（東目）には 1899（明治 32）年に設立した鹿屋農学校（現在の鹿屋農業高校）のみがあった。旧制中学校設立の願いは他地域も同様で、奄美大島では 1900 年（明治 33 年）に「鹿児島県立大島農学校」が誕生したが当時の人々が希望していたのは「中学校」（旧制中学校）であり、その後 1915（大正 4）年「鹿児島県立大島中学校」へと改められた。

*5 松山町史（p90）によると 1887（明治 20）年、東贈嶽郡と南諸県郡が共同で郡役場が岩川にできた。両者は 1897（明治 30）年合併し現在の贈嶽郡（1971（昭和 46）年贈嶽郡を曾於郡に改称。）が誕生し、大隅国に編入された。郡行政の決議機関として郡会があり、郡議員は各市町村から選挙によって選出した。定員は岩川・恒吉・市成・松山・月野・野方は各 1、財部・末吉・志布志・大崎は各 2 名であった。郡参事会は会員 5 名で議員の互選で決まり郡費は各村で負担した。

した中で末吉高女の存続と志布志高女の県立移管^{*6}が決定され異例の一郡に二校の県立女となった。この結果 1935（昭和 10）年に鹿児島県立志布志高等女学校^{*7}が開校した。

鉄道線路も岩川・都城方面から宮崎県境へ延びる志布志線と志布志駅から鹿屋方面への古江線が記載されている。「鹿児島の鉄道・百年」によると志布志線建設過程は、1913（大正 2）年に都城・吉松間、現在の吉都線の開通に伴って鹿児島や熊本、福岡方面へ往来が出来るようになった。それを受けて志布志からの陸路の不便を解消するため志布志線の建設運動が起きた。運動の結果 1918（大正 7）年帝国議会で予算が成立し、1920（大正 9）年から都城～志布志間の工事が始まり、1925（大正 14）年全通し、志布志線と呼称した。

志布志線はその後宮崎県日南海岸を北進し 1935（昭和 10）年志布志・榎原間が開通し 1941 年（昭和 16）年には北郷まで開通し志布志線は西都城・北郷間（95.1 km）となった。第二次大戦後の 1953（昭和 28）年北郷から南宮崎間の工事が行われ 1963（昭和 38）年日南線として完成した。日豊本線南宮崎駅から志布志駅にいたる 88, 9 km の路線となった。

古江線は 1915（大正 4）年に高須・鹿屋間が「南隅軽便鉄道」が営業を開始し、その後「大隅鉄道会社」として鹿屋から高山、串良へと 1921（大正 10）年に路線が延長され、一時は経営は良好だったが、昭和初期の不景気から経営不振となった。そこで国鉄移管運動が起き、1935（昭和 10）年に当時の国鉄に買収され、路線も東串良から志布志まで延長され、古江から志布志間 47.8 km が全通^{*8}した。その後 1961（昭和 36）年には、垂水市の海潟まで、1972（昭和 47）年には国分まで開通して志布志・国分間 98.3 km の大隅線と改称された。

志布志港は前川の河口にある権現島影を利用していましたが、川岸が藩政中期以降浅くなり、大船は小浜で荷下ろしをするようになった。県内では 1899（明治 32）年より米の津港の近代的な改修が始まったが、明治 40（1907）年台以降海軍が志布志湾を艦隊の停泊地として利用するようになり、鹿児島県も 1911（明治 44）年より調査を進め、1919（大正 8）年には築港が起工された。河口左岸向川原より権現島の間に護岸を築き防潮堤を整備して道

*6 当時の新聞によると志布志町では町債 30 万、税金滞納 7 万円があり、財政的に苦しいところへ県立移管のため新たに十余万円の起債を行った。末吉町史 p425 より

*7 戦後の学制改革によって 1948（昭和 23）年に廃止された。同年には県立志布志高校が発足し、旧制中学を第 1 部、旧制女学校を第 2 部として、翌年 1 部 2 部を合併した。旧制女学校開校以来 28 年で卒業生は 1842 名、専攻科 69 名、補習科 27、講習科 69 名、併設中学校 267 名に達していた。一方旧制志布志中卒業生は、累計 2592 名であった。

*8 志布志～串良間は国鉄の車輪の幅に合わせて 1067 mm であったが、古江～串良は軽便鉄道が作った物を買収したので車輪の幅は 762 mm であった。そのため相互乗り入れはできず当時は志布志から串良間が古江東線、串良から古江が古江西線と別にされていた。1938（昭和 13）年には国鉄と同じ軌間の線路に取り替えられて古江線と呼ばれるようになった。ちなみに古江～串良間が開通したとき東串良町にとって唯一の駅設置は串良町に譲るわけにはいかず東串良駅と串良駅は串良川を挟んで 600m の短距離で建設された。

路・橋等も建設する計画であった。関係郡町村が工事費の四分の一を負担となっていた。1931（昭和 6）年志布志港竣工式が行われ、12 年の歳月と総工費 85 万 2000 円に達した。この間国や県の財政逼迫のたびに予算を繰り延べ工事計画を変更した結果であった。完成直前の 1930（昭和 5）には 7 万 3000 トンだった取扱貨物は 1940（昭和 15）年には 11 万トンに達した。また陸路が不便だった内之浦港との貨客船の定期便や鹿児島・大阪間の定期航路をもっていた船も寄港するようになった。

3 志布志の 2 万分 5 千分の 1 地形図から読み取る変遷

1) 1966（昭和 41）年の志布志（図 4：2 万 5 千分の 1 地形図）

初めて志布志の 2 万 5 千分の 1 地形図が完成したのが 1966（昭和 41）年である。志布志町は 1955（昭和 30）年に 26,650 人と最も人口が多くなり、1960（昭和 35）年の国勢調査では 26,061 人とわずかに減少しそれ以後は減少傾向が続いた。

ここでの大きな変化は、志布志役場が志布志高高女跡に移転している。1949（昭和 24）年に新制志布志高校の二部校（旧志布志女学校）が一部（旧制中学校）と合併したので、その校舎に町役場は移転した。その後家屋の老朽化にともない 1980（昭和 55）年に同じ場所に新築した。現在は町合併にともない有明町役場に本庁が置かれ、志布志市志布志支庁として使われている。

志布志高校と隣接する形で、香月小学校が設立された。1947（昭和 22）年国民学校は小学校と改称され、志布志小となった。しかし 2000 人を超える児童数^{*9}をかかえ続け、小学校建設が懸案となっていたが、1955（昭和 30）年に台風により校舎が被害を受けたのでこれを機に翌年に志布志高校借用校舎で授業が始まり、志布志小学校香月分校となった。新校舎を完成させ 1957（昭和 32）年香月小学校として開校した。

1950（昭和 25）年に志布志町は住宅不足を解消するため、若浜一帯の県有地（7 万 440 m²）を取得して、一部を町営住宅地、運動公園用地となった。1959（昭和 34）年にはグラウンドが開設され、公園面積は 5.9ha となっている。志布志町はソフトボールが盛んなため、第 27 回国民体育大会（1972（昭和 47）年）のソフトボール会場、昭和 57 年度（1982 年）全国高等学校総合体育大会会女子ソフトボール会場^{*10}になった。

志布志港は本格的な港湾整備は 1959（昭和 34）年から行われ、1000 トン級の物揚場が整備され翌年には戦前の取扱貨物量を上回った。また国道 220 号も整備され、従来の上町線から南側に仲町線として幅員 13 m の道路が 1962（昭和 37）年に完成した。志布志駅前も整備され近くには郵便局もできている。鉄道が開業した 1925（大正 14）年以降郵便も鉄道通送と利用されてきて、1931（昭和 6）年には志布志駅近くに移転した。

また地図の欄外には行政区は嶺南郡志布志町となっている。現在の字体に曾於郡になっ

*9 1955（昭和 30）年には志布志小の児童数は 2424 名、学級数 25 クラスであった。分離が一時減ってが、その後また 2000 人を超えたので、校区を変更して香月小を増やした。

*10 同年の男子ソフトボール大会には志布志高校が出場し、全国優勝した。その後も 1985（昭和 60）年に高校総体で優勝、1992（平成 4）年には選抜大会で優勝した。

たのは公式には自治省公示があった 1972（昭和 47）年からである。この経緯については大隅町誌改訂版^{*11} に詳しいが郡内の各町議会で賛成され県議会で陳情を採択して自治省に報告して決定した。

2) 1986（昭和 61）年の志布志（図 5：2 万 5 千分の 1 地形図）

図 5 は 1986（昭和 61）年の志布志であるが大きく 2 つの点で図 4 と異なっている。一つ目は鉄道のうち大隅線と志布志線がなくなったことと志布志港が拡大していることである。

鉄道廃止は 1987（昭和 62）年であった。国鉄では昭和 60 年度までに廃止する路線の基準を 1 日 1 km あたり 2,000 人以下の輸送密度の路線としており、志布志線は 1,617 人、大隅線は 1,109 人であった。日南線も廃止対象であったが、鉄道とバス代替用道路の間が最も遠いところでは 14 km 離れており、廃止した場合は距離が 2 倍近くなるなどの理由で廃止対象から外された。反対運動も起こったが、バス代替が決まった。志布志線は開業してから 63 年間、大隅線は大隅鉄道時代から 71 年、全線開通してからわずか 14 年の歴史であった。志布志駅前の鉄道記念公園には S L^{*12} とディーゼルカーが保存展示してあり、毎年年末には一帯がボランティアの助けできれいにイルミネーションで飾られている。

志布志港の整備は戦後進んでいき、1976（昭和 51）年には大型船の係留施設が完成し、翌年から志布志港経由の大阪・鹿児島間のカーフェリー「さんふらあ」が就航した。その後の港拡張に大きな影響をあたえたのは「新大隅開発計画」であった。高度経済成長中の 1968（昭和 43）年に県は「20 年後のかごしま」の報告書を出した。その中で太平洋ベルト地帯の工業化が進む中で、志布志湾は遠浅で広大な工業用地適地であるとして、埋め立てて石油化学コンビナートなどを立地しようとする構想が出された。その後は新大隅開発計画として国レベルで 1969（昭和 44）年に新全国総合開発計画^{*13}（以下新全総）には、大規模工業基地の候補地の一つとして志布志湾があげられた。

鹿児島県では新全総に組み入れられたのを契機に 1971（昭和 46）年「新大隅開発計画（仮称）」を発表した。中心となる事業として志布志湾の臨海工業地帯の造成して世界最

*11 きっかけは 1960（昭和 35）年に鹿児島大学増村教授の新聞投稿で「歴史的にみても難字の贈嶽を曾於して問題ない」ことをうけて、大隅町の中野四郎氏が熱心に運動し、関係議会に働きかけた。財部町議会のみひらがなの「そお」にこだわったが 1971（昭和 46 年）には賛成に転じて変更になった。大隅町誌改訂版 p 379～382 より

*12 志布志駅には志布志・日南・大隅の分岐点だったので志布志管理区がおかれ、最盛期の 1955（昭和 30）年には S L（C 11 型）15 台とディーゼルカー 8 台を保有していた。最後の S L 運転は 1975（昭和 50）年に行われた。

*13 戦後復興のため 1950（昭和 25）年には、国土総合開発法が、1962（昭和 37）年には全国総合開発計画が出され、重化学工業が推進された。1969（昭和 44）年には新全国総合開発計画が、1977（昭和 52）年には第三次全国総合開発計画が、推進された。大規模工業基地の候補地全国 5 カ所あり志布志湾のほか苫小牧東部、むつ小川原、秋田湾、西瀬戸であった。



図4 1966（昭和41）年の志布志（2万5千分の1地形図より）

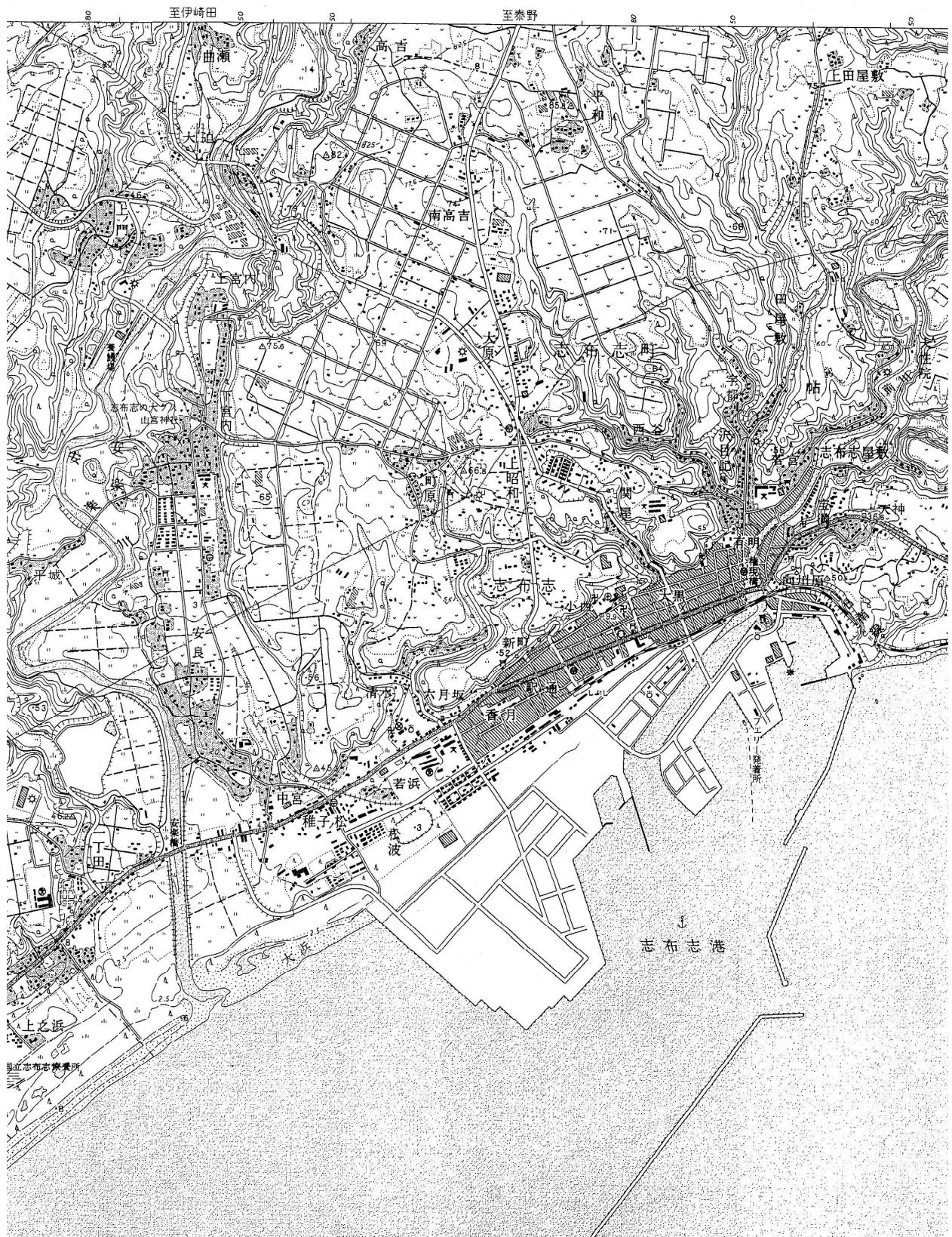


図5 1986（昭和61）年の志布志（2万5千分の1地形図より）

大級の石油精製などの石油化学コンビナートなどを立地するというものであった。しかしこの案は住民の強力な反対運動にあい廃案になった。この後県は地域の要望と石油ショック後の情勢変化を受け 1976（昭和 51）年「新大隅開発計画」を発表した。そこでは埋立面積を縮小し、石油化学コンビナートを縮小し、その代わりに沿海部に石油備蓄など取り入れた。しかし根強い反対運動と湾を共有し、もらい公害を心配する宮崎県との調整が難航したうえで 1980（昭和 55）年に正式決定された。

この間 1978（昭和 53 年）年には志布志港の港湾改訂計画を策定し、従来の志布志港を拡大することで二次試案にあった同一埋立地を造成することにした。反対住民は「新大隅開発のなしくずし着工」と批判したが、鹿児島県は別であるとして着工した。志布志港改訂計画では 98ha を埋立て、飼料工場の立地が組み込まれた。

一方石油精製は、第 1 次石油ショック（1973（昭和 49）年）の状況変化を受けて、県は 1980（昭和 55）年の「新大隅開発計画」では工業立地は、段階的立地となった。1981（昭和 56）年に石油公団に働きかけ国家石油備蓄基地の候補地になった。計画が正式に立地決定になったのは 1984（昭和 59）年であった。この間長引いたのは環境庁の同意、漁民の同意、1983（昭和 58）年以降の原油価格引き下げに伴う財政難などがあった。1990（平成 2）年県議会で土屋知事は「新大隅計画」は平成 2 年度までの計画となっておりそれで終わると事実上の終息宣言を出した。

1979（昭和 54）年志布志港を拡張整備する志布志港の港湾計画改定が発表され、鹿児島県と志布志漁協の漁業補償が妥協した。運輸省は 1980（昭和 55）年に鹿児島県が申請していた志布志港の埋立について認可し、知事は総面積 97.4ha の埋立を免許した。

埋め立て工費は、港湾改訂計画に伴う総事業費は 500 億円であった。1985（昭和 60）年に若松地区の埋立は完了し用地面積は約 69.1ha、うち工業用地面積は 54.8ha である。1987（昭和 62）年に穀物貯蔵施設、配合飼料、倉庫などが進出して飼料コンビナートが形成された。同年には開港^{*13} 指定をうけ、若松埠頭が供用され大型の貨物船が入港するようになった。

図に見えないが、安楽川の右岸の一丁田には、尚志館高等学校高校^{*14} がある。前身は 1969（昭和 44）年に創立した川島学園志布志実業高等学校である。姉妹校としては鹿児島実業高校、川内実業高校（現れいめい高校）があった。志布志に開校し前史として、小中学校に給食が供給されるようになった 1950（昭和 25）年には各校に給食調理室が整備され、それに対応するため 1953（昭和 28）年私立の志布志経理専門学校が創立された。経理学

*13 志布志港の開発効果について、『志布志港における開発効果』によれば企業立地は若松地区臨海工業用地 30 社、大浜地区都市再開発用地に 7 社あった。港湾取扱貨物総量は港湾建設前の 1979（昭和 54）年の 187 万トから建設後の 1987（昭和 62）年には 464 万ト 83 % 増加した。外貿易も 1985（昭和 60）年の 6.6 億円から 87 年には 102 億円になった。志布志町の税収も 1988（昭和 63）年度では町税の 16 億 4500 万円のうち若松 地区おける税収が 3 億 3800 万円と 20.5 % をしめている。

*14 1997（平成 9）年校名を尚志館高等学校と改称した。2013（平成 25）年には大隅半島から初めて選抜高校野球選手権（第 85 回記念選抜野球大会）に出場した。

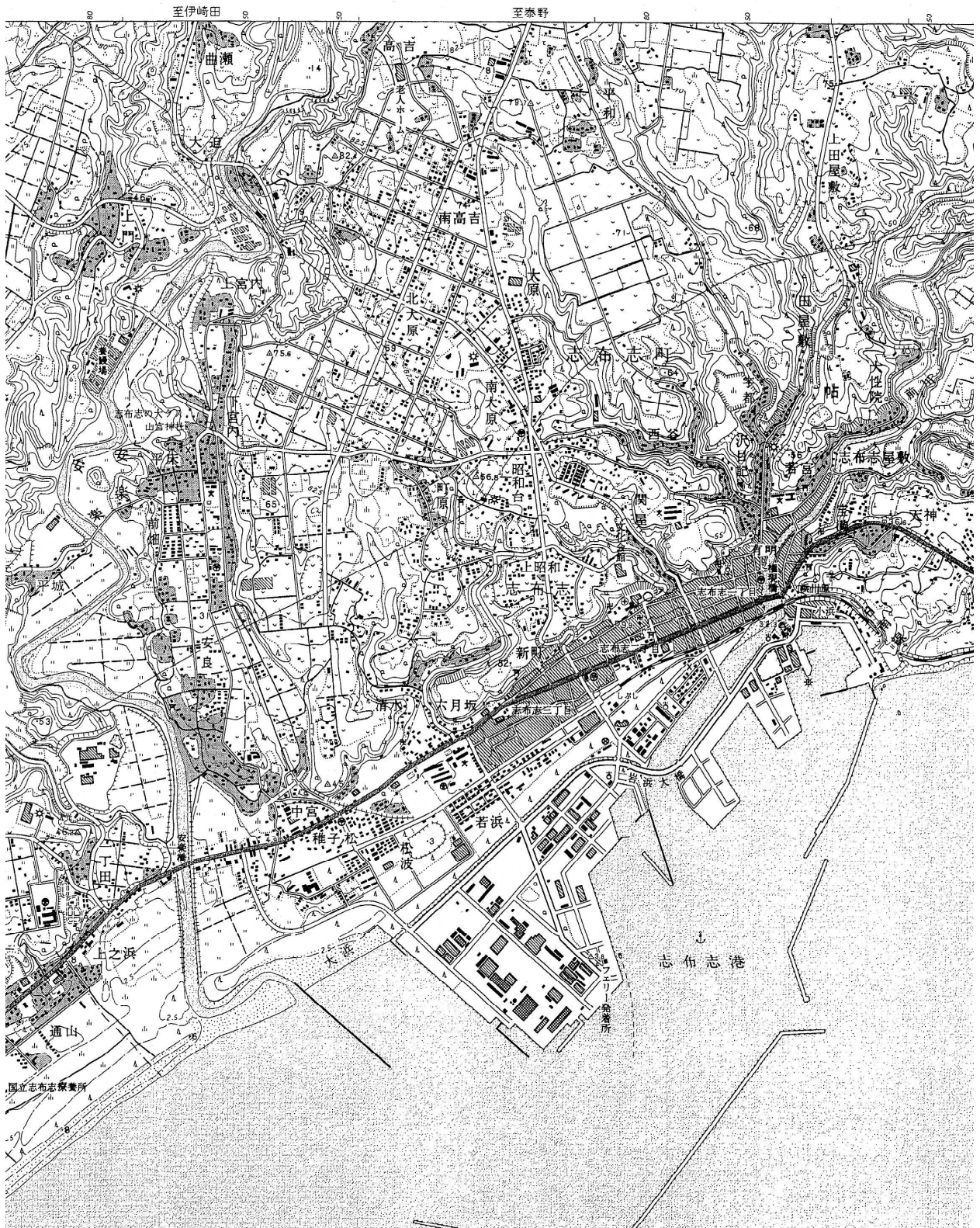


図6 1997（平成9）年の志布志（2万5千分の1地形図より）

校は後に町立に移管されたが各種学校であったので、県立の実業高校をという要望があったり、新大隅開発を控え教育施設の充実と町発展のため実業高校誘致を働きかけ町有地を売却して誘致した。

2) 1997（平成9）年の志布志（図6：2万5千分の1地形図）

図6は現在市販されている地形図であり、大きな変化としては志布志港が整備されフェリーは発着場が表記されている。ここは大阪行きの「さんふらわ」が毎日運行している。また図5であったフェリー発着場は週1回東京・志布志・奄美・沖縄を往復するフェリー有明が利用している。さらに臨海部の埋立地には飼料工場などが明記されている。埋立西側から都城方面へ延びる道路は部分的にしかないが現在は完成して飼料など満載したトラックが行き交う主要道になっている。

大隅半島全域が日本有数の畜産地帯であったことから、飼料用穀物類の輸入量が増加し、2009（平成21）年度では、同港陸揚げ貨物の約7割がコウリヤンやトウモロコシなどの飼料用穀物類が占めている。また輸入量は347万t、輸入量は4万9千tと極端な輸入超過である。輸出額は輸入額の1割ほどしかないが、輸出入の総額は1000億円を超えている。従来は9千tクラスの船しか接岸できなかったが、九州で唯一の8中核国際港湾に指定され1997（平成9）年から港湾整備が始まった。

さらに安楽川河口の大浜も埋め立てられ、コンテナ港が整備されている。2009（平成21）年には新若松地区に水深14mを超える5万t級のコンテナ専用バースが完成し運用が始まった。国際海上コンテナターミナルの整備も終了し、図7のように2001（平成13）年には約2万9千TEUのコンテナ取引から2012（平成24）年には約9万TEUまで増加しており、今後の発展が期待される。

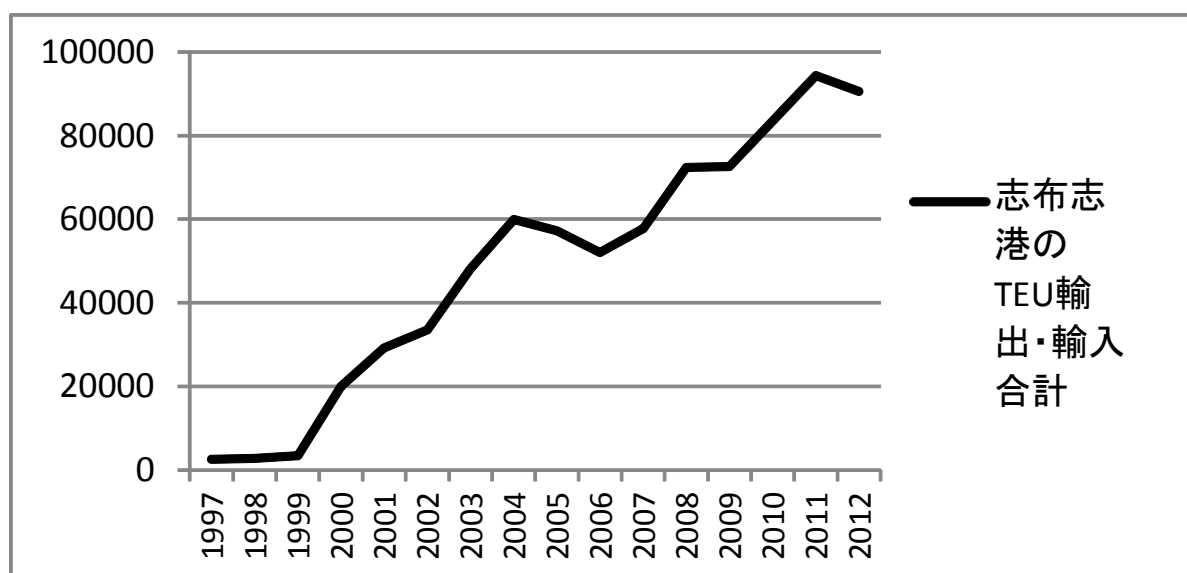


図7 志布志港のコンテナ輸送量（単位 TEU：TEU（twenty-foot equivalent unit、20フィートコンテナ換算） 財団法人 港湾近代化促進協議会ホームページより

図には描かれてないが、市街地の背後の台地には住宅地がさらに増えて、消防署も旧有明町の通山付近の海岸部から台地上の昭和台に移転している。さらに志布志2丁目にあつ

た大型スーパーが閉店になるなど市街地の変化も起きている。

4 まとめに変えて

本稿をまとめていく過程で新たな発見の連続であった。志布志高校の前史として旧制中学校・旧制高女が地域の支えで開校・存続した。志布志駅前の鉄道公園にSLが展示してあるのも鉄道交通の中心であったからである。

大隅線・志布志線は代替交通ができたので廃止されたが、日南線のみはできなかったの
で存続したことも知ることができた。さらに 2011（平成 23）年の東日本大震災以降、津波の危険性が指摘され、志布志高校の海拔も標高 5 m 程度で避難対象になっている。そのため避難経路は旧志布志線路跡の道路を使用した。このように地域の過去を知ることによって理解できることも多い。

人口減をむかえ、曾於地区では高校再編が進み、将来的には志布志高校と曾於高校の 2 校だけになってしまう。旧制中学校誘致運動などの歴史を振り返ると当時の努力を無に返さないようにしていきたいとの決意をあらためて抱いた。

参考文献

- 宇都宮照信編 2002. 『九州 鉄道の記憶 各列車・名場面・廃止線』西日本新聞社
久木田末夫 2000. 『鹿児島県の鉄道・百年』鹿児島文庫 64 春苑堂出版
熊本一規 1986. 『埋立問題の焦点 志布志湾国家備蓄基地と漁業権』緑風出版
西村富明 2007. 『検証 鹿児島・奄美の戦後大型公共事業』南方新社
平岡昭利編 1997. 『九州 地図で読む百年』古今書院
原口虎雄ほか校訂 鹿児島県地方史学会 1971. 『薩隅日地理纂考』鹿児島県地方史学会
志布志高校 2012. 『松径 20 号』
1980. 『有明町誌』有明町
1984. 『志布志町誌上・下』志布志町
1969. 『松山町郷土史』松山町
1969. 『大隅町誌』大隅町, 1990 『大隅町誌』改訂版 大隅町
1970. 『末吉郷土史』末吉町
運輸省第四港湾局志布志港工事事務所 1989 『志布志港における開発効果』昭和 63 年工事資料
志布志石油備蓄株式会社 1994 『志布志石油備蓄 10 年史』
建設省計画局地域計画課運輸省国土地理院部 1972 『昭和 46 年度国土総合開発事業調整費
志布志湾大規模開発計画調査報告書 土地条件調査』
財団法人港湾近代化推進協議会ホームページ
国勢調査

[学校における防犯・防災について]

鹿児島県立志布志高等学校
教諭 下山 慎吾

1 研究主題

学校現場に必要な防犯・防災に関する取組等についてより具体的に研究し、今後の安全教育に役立てる。

2 研究のねらい

2011年3月11日、東北地方を中心としたマグニチュード9.0の東日本大震災が発生した。揺れによる被害はもとより、津波の被害は多大なものであり多くの人命が失われることとなった。また平日の午後に発生した災害であったため、学校現場での対応が必要であり被災した児童、生徒たちにとって学校単位の対応が大きな影響を与えた災害であった。災害後、多くの検証や見直しが行われており、今後も継続していかなければならない。被災地から遠く離れた私たちにとっても、南海トラフ地震の発生予測など、決して油断のならない状況であるということを再認識した災害であった。南海トラフ地震による津波の被害が予測されていることもあり本校は平成23年度から2年間、県の防災教育モデル校に指定された。生徒及び教職員の安全を守るにはどうしたら良いか。防犯・防災に関する課題について考えてみたい。

3 研究経過

(1) 学校現場における事件、事故、災害等の研究

①学校における事件

学校において想定される生徒の安全に関わる事件について考察してみる。想定される事件は様々であるが、外部からの侵入者により引き起こされるものと、内部で引き起こされるものに大別される。

○大阪教育大学附属池田小学校襲撃事件

平成13年6月8日、池田小学校に包丁を持った男が侵入し、8名の児童が死亡、負傷者15名を出した事件。不審者に対する対策と対応、事件後のケア等が問題となった事件である。

本校においては外部からの侵入者を防ぐために、注意喚起の看板を設置し、来客者には事務室で許可証を発行し着用してもらうといった対策をしているが、私が赴

任した2年間において外国船の乗組員と思われる外国人の集団や、他校生、地元の一般市民等が校内に無許可で入ってきた例があり、すべての侵入を完全に防ぐことは施設、設備の面からも非常に難しいものがある。開かれた学校を目指すという観点からも考慮しなければならない点が多い。これらに対しては管理職をはじめとした職員がそれぞれに対応しているのが現状である。侵入を防ぐ対策をするならば、学校周辺のフェンスの建設、各門への警備員の配置若しくはカメラの設置等ハード面の対応が必要となるだろう。ソフト面での対応として有事の際は年度当初に確認される校内緊急連絡体制に基づいて動くことになる。(資料①)

②学校における事故

学校における事故は全国的に見て、軽微な外傷から後遺症、死亡につながる重篤なものまで広く発生している。我々は事故を未然に防ぐため、日頃の点検や生徒、教職員の危険予測能力の育成などに取り組まねばならない。

○昭和第一学園高校における死亡事故

平成23年5月、東京都立昭和第一高校の野球練習ケージが倒れ、男子生徒が鉄製支柱で頭部を強打し死亡した事故。野球部指導者はケージが強風により転倒するのを過去に目撃しながら、転倒防止策など必要な措置をとらなかったため事故が発生した疑いで書類送検された。

本校において転倒時等に危険が予測される器具は、サッカー、ハンドボールのゴールポストや、野球部が使用するネット類、学校行事等で使用される組立式テントがある。これまでに事故につながるような危険な状況は報告されていないが、日頃から移動時の監督や使用時、未使用時の安全確保には十分留意していく必要がある。また、月に一度行われる校内安全点検に関して過去に起こった事故等を参考にするなどして教職員一人一人が安全に対する意識を高めていくことを継続しなければならない。

この他にも、性犯罪や交通事故、虐待など生徒の安全に関わる問題は非常に多岐にわたる。最新の情報収集や地域、関係諸機関との連携を図り、事前の危機管理、発生時の危機管理、事後の危機管理の質を向上させなければならない。有事の際に資料①に示した流れで対応するためには、すべての教職員が慌てることなくこの流れに沿って対応できることが求められる。しかし池田小学校の事件でも問題点として挙がっているように重大な事件が発生した場合の対応や状況把握は非常に困難なものと考えられる。ハード面の整備はもとより様々な事件、事故を想定した日常的な訓練や、教職員の意識対応力の強化を図っていく必要がある。本校における事件

や事故に対する訓練は定期的に行われてはならず今後の課題であろう。

③学校における災害

ゲリラ豪雨や落雷、台風、地震、津波、火山の噴火など自然に関わる災害は決して人ごとではない。先に述べたように東日本大震災においては学校管理下において多くの児童、生徒、教職員の尊い命が奪われることとなった。災害時にいかに生徒、教職員の安全を確保できるか。ここでは南海トラフ地震による地震と津波発生に備えた危機管理マニュアルと避難訓練について考えてみたい。

○危機管理マニュアルの作成

(マニュアル作成において留意しなければならないこと。)

・災害そのものの分析

東海沖から九州沖の太平洋海底に延びる溝状の地形（トラフ）を震源として起きる巨大地震。政府は1707年に起きた宝永地震のマグニチュード（M）8・6を最大と想定していたが、東日本大震災を教訓にM9級の発生を想定。最悪の場合、巨大津波などで32万3000人が死亡、220兆円の経済被害が出ると推計した。

・地域の特性と災害の関係の分析

南海トラフ地震が発生した場合の志布志市の最大予想震度は6弱、最大津波高7m、津波到達最短時間は36分という予想。本校は海拔6.3mと低い位置にあり浸水の可能性が高い。よって高台への迅速な避難が必要となる。

・地域における災害の歴史

1662年日向灘付近で発生した外所地震により宮崎を中心に津波が発生し、志布志湾においても推定2～3mの津波が発生した。また、東日本大震災の際にも1.1mの津波を観測している。

・起こりうる災害の可能性

登校中、授業中、休み時間、放課後、休日等様々なパターンを想定し、対応できるように準備する必要がある。本校においては授業中、授業以外、登下校中を想定しマニュアル化。

・専門家の意見

専門家の意見等を参考にしつつ、適宜変更を加える必要がある。本校においてはマニュアル作成当初、近隣幼稚園の児童の避難補助をマニュアルに入れていたが、

専門家のまずは自力での避難をとという意見により削除している。

・地域の防災資源

近隣市町村はそれぞれハザードマップを作製し、避難場所の確保や海拔の表示プレートを設置しており、本校においても職員室前の目に付く場所にハザードマップを掲示している。また、防災に関する会議や講演会が定期的に行われている。住民と同時に進行避難訓練にも参加している。

「マニュアルの作成は100%を目指さなければならない。しかし、完成度75パーセントのマニュアルを」とは震災時、南三陸町立戸倉小学校の校長であった麻生川先生の言葉である。あらゆる可能性を検討してマニュアル化する必要があるが、判断場面の想定、選択の余地を残さなければならない。想定外の事態も想定する必要がある。

○避難訓練

地震を想定した避難訓練は過去何十年も同じような形式で行われてきた。「事前に避難訓練の内容を伝え、地震発生を伝えるとともに机の下に隠れる等の指示。揺れが収まったら安全を確保しつつ校庭への避難を呼びかける。」

今回の震災による反省から、より現実に即した避難訓練の在り方が提唱されている。

①放送より先に揺れが来る。

実際の地震では、放送よりも先に揺れが来る。放送による指示では後手に回る可能性が高い。

②机がない場合にどうするか。

教室内で地震に遭遇した場合は良いが、机がない場所にいる場合も想定しなければならない。

③校庭に避難。

いつも校庭に避難できるとは限らない。耐震化が進んだ校舎及び体育館においては気象条件等を考慮した場合、屋内に集まる方が安全な場合もある。

④1次避難のみで終了。

津波による被害が甚大であった震災を受け、2次避難の重要性が再認識された。津波を想定した2次避難まで実施する必要がある。

本校においても上記のような従来型の避難訓練に近い形で訓練が実施されている。

①に関して、今年度Jアラートが設置されたことにより、緊急地震速報と連動した避難が可能となった。報知音に反応し避難行動に移れるよう訓練していかなければならない。②に関して、机の下に隠れるという行動はそもそも落下物に備えるという避難

行動である。机がない場合は太い柱の側に身を寄りガラスから離れるといった避難行動をとる必要がある。「自ら危険を予測し、自ら回避できる」ということを身につけさせなければならない。授業中だけでなく、様々な時間帯での突発的な訓練も必要である。③に関しては、校庭以外の場所への1次避難を想定した訓練を実施する。④に関して、本校では年度初めの避難訓練において、実際に高台にある避難場所へ2次避難する訓練を実施している。今後は、これらのことを踏まえつつより実際的な訓練の工夫を行わなければならない。訓練を通して、学校以外の場所で起きる災害に対しても即座に対応できる能力を身につけさせることが重要である。

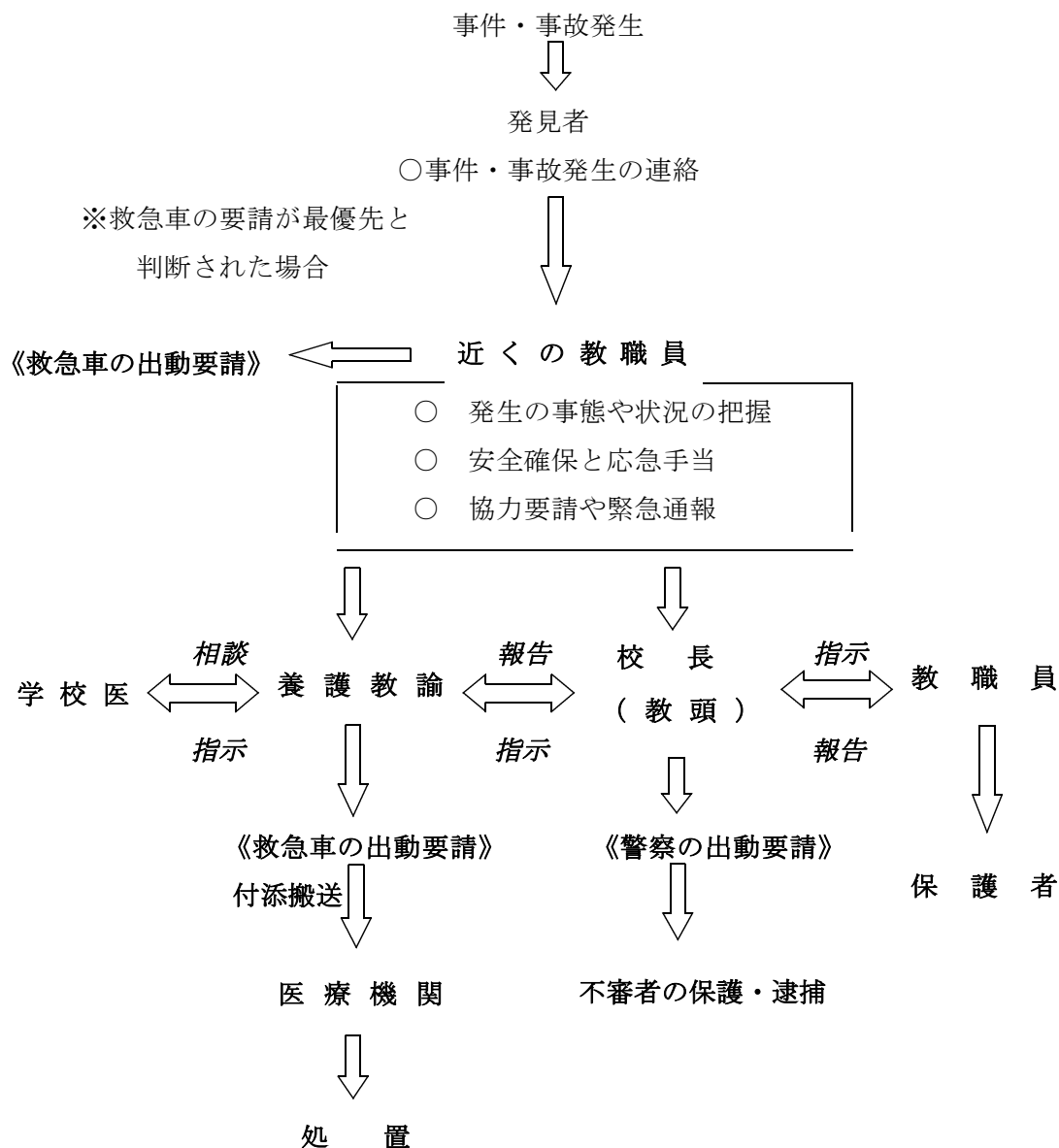
4 研究のまとめ

学校は安心して学べる場でなければならない。生徒、教職員の安全を脅かす事態に対しては、様々な想定をし、事態に備える必要がある。事件、事故、災害についての研究をすることでこれまでよりも安全教育の重要性を認識することができた。ここで挙げた点以外にも、避難後の生徒引渡しの問題や、事件、事故、災害後の心のケアの問題等、今後も研究しなければならないことは数多くある。何かが起こる前に、継続して取り組んでいきたい。

〈参考文献〉

- ・「平成24年度健康教育指導者養成研修 学校安全コース」矢崎良明・麻生川敦講師資料
- ・学校施設の防犯対策について (文部科学省)
- ・南海トラフ巨大地震の被害想定(第二次報告)について (内閣府)
- ・附属池田小学校事件に関して (大阪教育大学)

校内緊急連絡体制



重大な事件・事故発生の場合は【事件・事故対策本部】を設置する。

- 外部との対応
- 情報の収集・整理
- 教育再開準備
- 再発防止対策の実施
- 救護活動

英語コースについて

英語科 飯田幸一朗

0 始めに

英語科の閉科に伴い、平成24年度の2学年から英語コースを普通科文系に設置することになった。第1期生が今年度卒業するに当たり、英語コースのこれまでの活動や行事、取り組みについて紹介する。

1 英語コースの設置

平成3年度に設置された英語科は平成25年3月に22年の幕を閉じた。これまでスーパーイングリッシュランゲージハイスクール等の事業により、県下でも英語教育研究の中心的な役割を担ってきた。英語コースはこれまでの英語科が行った研究や教授法を活かしながら、志布志高校における更なる英語教育の充実を図るものとして平成24年度から新設された。設置に当たり、以下の4点を決めた。

- ①英語コースは2年次からのスタート。文理選択と同時に文系の中にコースを設置。
- ②高校入試の推薦要件として英検準2級の取得。
- ③英語コースに推薦で入学した生徒は1年次に添削指導を受けて英語力を伸ばす。
- ④英語コースに推薦で入学した生徒は2・3年次英語コースに所属する。

①については従来の英語科と異なり、2年次からのスタートになるようにした。1年次の成績や将来の目標をある程度決めさせておき、その上で英語の勉強に意識の高い生徒を英語コースに集めるようにした。②に関しては、④とも関連するため、目的意識が高く、英語力の高い生徒を募集することを目標にした。しかし、準2級（高校中級程度）は中学生には難しすぎるという観点から、平成24年度の入試から②の条件をなくした。

2 英語コース行事等検討委員会の設置

平成23年度入学生から英語コース生を募集することとなった。そのため1年をかけてクラス編成上の条件や独自の行事などを話し合う委員会が設置された。以下が委員会で決定した内容である。

英語コースについて

「英語が好き」というだけでなく、2年次から英検2級以上の取得を目指すために、英語の添削指導や英語キャンプ・TOEIC 合宿・英検合宿等、英語の強い指導についてくることができる意欲と能力を持った生徒が望まれる。本当に英語力を高めたいという生徒を募集する。

目標

国際理解を深め、言語活動の能力を高めることを目指し、以下の2つの目標を設定した。

- 1 英語を使った表現活動（スピーチやディベート）ができるようになるための基礎を身につけさせ、外国人と積極的にコミュニケーションを図れるような能力や態度を育てる。
- 2 実用的な英語能力はもちろん、国公立大学外国語学部等への進学を目指し、受験体制を充実させ、センター試験や個別試験に十分対応できる能力を身につける。

具体的な指導

国公立大学外国語学部系統への進学、英検2級以上の取得・TOEIC650点以上の得点等ができるよう指導する。

コースの設定

2年次より普通科文系の中にコースを設ける。

文系 1 組	文系 2 組	◎英語コース
在籍上は文系 1・2 組に所属 →		教室は可能な限り別に
担任 副担任 A	担任 副担任 B	担任 副担任 (ALT)

英語コースを設置することによるメリット

- ①まとまった指導ができる。
- ② SHR や終礼等で、最大限に英語を利用できる。
- ③教室の雰囲気英語一色にできる。
- ④英検や TOEIC, 外国語学部系等の進学を目指し、同じ方向を向いて英語力を磨くことができる。
- ⑤総合学習や LHR 等も英語コース向けのものができる。

教育課程（平成 23 年度入学生）

教科	科目	1 年	2 年	3 年	計
外国語	オーラルコミュニケーション I	2			2
	英語 I	3			3
	英語 II		5		5
	リーディング			5	5
	ライティング		2	2	4
専門科目（英語）	異文化理解		2	2	4

英語コース生の条件（1年生→2年生）

英語コースの生徒は、次の 3 つのいずれか一つの項目を満たすことを条件とする。

- 1 英検 3 級を取得しており、6 月・10 月・1 月のいずれかに準 2 級を受検している。
- 2 数回受験した進研模試のいずれかの英語の偏差値が 50 を越えているか、スタディーサポートの学習到達ゾーンが B 2 以上である。
- 3 G-TEC の総点が 400 点を越えている。

また、国公立の外国語系進学のおすすめについては、英語コース生を優先させる。

英語コースの主な活動や行事

- 1 サマーセミナーやスプリングまたはウィンターキャンプ・TOEIC・英検合宿等
- 2 海外（英語圏）への修学旅行（語学研修）
- 3 英語スキット・弁論大会、英語ディベート大会等への参加の奨励
- 4 レシテーションコンテストやスピーキングコンテストの実施
- 5 学年対抗英語ディベート大会
- 6 長期・短期の外国人留学生受け入れ

3 生徒への希望調査結果等

1年次の2学期頃から生徒に英語コースの説明を行い、文理選択の際に希望調査を行った。初年度ということもあり、積極的に希望する生徒は少なかった。英語コースの条件等の問題もあるが、「前例がないこと」や「修学旅行の懸念（普通科と同じでない・経済的な問題）」、「進路が外国語系ではない」等が希望しない理由であった。また「友達関係」等も女子を中心に多く、男子は「女子が多いから」等の理由もあった。最終的に22名が志望し、英語コース1期生が平成24年に誕生した。

4 英語コースの行事や取組

① SHRの活用

ALTにSHRに出席してもらい、英語による朝の連絡や英語での活動の時間に充てた。ALTも快く引き受けてくれて3年生の卒業時まで連絡事項を伝えたり、ショートスピーチの司会、コメント等10分間の中でバリエーション豊かに行った。最初は全く聞き取れずに戸惑った生徒達もいたが、1ヶ月ですぐに慣れていった。3年次に「英検やセンター試験などのリスニングテストに大きく役立った」という生徒の声が多く聞かれた。

② サマーキャンプ

英語科の時代から行われてきたサマーキャンプを英語コースでも引き続き実施した。研修場所は国立大隅青少年自然の家にて行った。県内のALT5名に来てもらい、2泊3日間の英語漬けの日々を過ごさせる機会となった。研修内容は以下のとおりである。

(1日目)

- ・ALTの自己紹介
- ・グループ毎の自己紹介
- ・ゲーム活動
- ・カラオケタイム

(2日目)

- ・スピーキングチャレンジ（修学旅行時の英語表現の習得）
- ・ALTへのインタビュー&発表
- ・英語スピーチ発表
- ・トレジャーハント
- ・英語ゲーム
- ・スキット準備
- ・映画鑑賞

(3日目)

- ・スキット発表

研修内容は基本的に英語科時代のものを踏襲した。新しく始めたものは英語のカラオケである。カラオケは1学期にかけて好きな歌を練習しておき、この日に発表という形になった。聞く方も楽しめるように、それぞれが歌う歌を授業時にも聞かせていた。カラオケボックスの様にキーを合わせることが出来ずに苦勞する生徒もいたが、楽しく活動することができた。サマーキャンプの活動の中でも人気が高かった活動である。

トレジャーハントは英語科の時は室内で行っていたが、場所が大隅青少年自然の家ということもあり大自然の中で行うことが出来た。内容も工夫し、英検2級の単語集からALTが物語を作成。その物語をパラグラフでバラバラにしたものを敷地内の樹木に貼っておく。生徒達は地図を参考にしながら全てのパラグラフを集めて物語を完成させるという活動である。また途中にいるALTが出すMissionに答えなければ次のパラグラフを探せない。そのためには英語で積極的に話さなければならない。自然の中ということもあり、

英語科時代のものよりも生徒の反応は良かった。

スキットに関しては、ALT の先生方のお陰で、英語科時代よりも準備が終わって、練習をする時間が十分に取れたと思う。クオリティーの高いものも多く、いくつかは中学生対象のスピーチコンテストで発表することになった。

22名の生徒に対し ALT が5名という割合だったので、生徒一人一人が英語を使う時間がかかなり多かった。様々な英語の活動を通して、生徒達の英語に対する興味関心が高められた。また1学期をかけて基本的なパターンプラクティスを行ったため、生徒の中には勉強したことが実際に使えると実感した者が多かった。本年度卒業生にとって修学旅行に次いで思い出に残るイベントであった。

③ 修学旅行

修学旅行はオーストラリア、シドニー郊外へ平成24年10月21日（日）～26日（金）までの5泊6日の日程で行われた。以下が日程である。

21日（日）	志布志高校発 → 鹿児島空港 → 羽田空港 → お台場散策 → 成田空港
22日（月）	シドニー空港着 → ホストファミリーと対面 → ファームステイ
23日（火）	ファームステイ
24日（水）	ホストファミリーと別れ → シドニー観光 → 市内ホテル着
25日（木）	シドニー自主研修 → タロンガ動物園 → シドニー空港発
26日（金）	成田空港着 → 浅草散策 → 羽田空港 → 鹿児島空港 → 志布志高校

初めての海外という生徒がほとんどであり、出入国審査や税関、機内での英会話など緊張しながらも良い経験となった。またファームステイはオーストラリアの大自然の中、それぞれのホームで農業体験を行いながらホストファミリーと英語で意思疎通を図ろうと一所懸命になっていた。費用面などの問題があったが、生徒にとっては大変貴重な体験となった。

④ 英検合宿

英語コースの一つの目標として英検2級取得を目標にしている。そのため英語コース全員が2級合格を目指し、学習に励んだ。英検合格のために2年次に2回英検合宿を行った。場所は大隅青少年自然の家で2泊3日で行った。金曜日からの出発のために、合宿中に土日の宿題を済ませて、その後で英検の問題の解説や単語を覚える自習に充てた。単語の覚え方として1日目に NHK で放送された「テストの花道」で紹介された「英単語の覚え方」を利用した。生徒にも大きな動機付けになり、単語の勉強の一助となった。

英検合宿を通しての成果は、英語力の向上は勿論のこと、クラスが一丸となって英検取得に向けて勉強する雰囲気作りができたことである。多くの生徒が最後まで英検へのこだわりを持って学習する生徒が多いことに繋がった。

⑤ 文化祭での取組

英語コースの1期生は、英語のショートストーリー（英語のジョーク）をプレゼンテーションソフトを利用して発表した。英語の音声のみの発表であれば、一般の生徒にはわかりにくいこともあり、パワーポイント

トでイラストなども入れていきながら、英語の読み方などを臨場感が湧くように工夫させて発表させるようにした。発表時間の制約などもあり、コース全員の発表とはならなかったが、全校生徒の前で英語の発表をするという緊張感を味わえたことは生徒にとって大変自信に繋がったのではないだろうか。

平成25年度は3年生（英語コース1期生）は英語アナウンスに挑戦した。様々な場面で流れる英語放送に着目し、それをまねる活動である。大リーグやサッカーの野球中継や飛行機の機内アナウンス、ニュースや天気予報、CM、アニメの吹き替え、コンサートの告知等様々なものに挑戦した。生徒達は加工されていない英語（教科書等の編集された音声）のスピードについて行けない生徒が多かったが、何度も何度も練習する内にそのスピードについて行けるようになり、速く話せること、英語らしく発音すること等に自信を持って英語を寄せられるようになった。本番では1人1人が堂々と発表してくれた。

2年生（英語コース2期生）は文化祭において、英語劇（間違いやすい英語表現）について発表した。様々なシチュエーションで日本人が間違いやすい英語表現について劇を交えながら、解説していくという大変完成度の高いものであった。

⑥ 2・3年の交流

英語コースの2年生・3年生の交流をもっと深めようと考えた。SHRの利用である。3年生の英語コースの担任が2年英語コースのSHRに行き、現在の3年生の様子や、2年次にやっておいた方がよいことなどを話す機会を設けた。また本年度2学期からは3年生でAO入試や推薦入試を終えた生徒、またはセンター試験に向けて頑張っている生徒を2年生のSHRに行かせて、現在の心境や入試の体験談や勉強法などを自由に語らせた。3年生の生徒も積極的に自分の体験を話し、2年生からはSHRの時間では足りないほどの質問があった。担任や教科担任の話ばかりでなく、自分が1年後にどのようなことをしなければならないのか、またそのために何をしておくべきかを考える良いきっかけになったのではないだろうか。

今後も授業や総学、LHRの時間を更に活用し、更なる刺激をしあえるような2年生と3年生の関係を作っていきたい。

⑦ ALTの積極的な活用

本校には2名のALTが所属している。1年から3年までALTとのT.Tが時間割の中に組み込まれており、全ての学年での授業を週15～16時間担当している。英語コースの設置に伴い、更なる活用を行おうと様々な活動を行った。

・スピーキングチャレンジ

様々なMissionを生徒に与え、ALTとできるだけコミュニケーションを図らせるようにした。Missionの内容は、「私の大切な物」「私の好きな本」「私の好きな映画」等、その内容について休み時間や放課後等を利用し、1週間に一つずつMissionをクリアさせ、終了した時点でALTからステッカーを与えてもらい生徒のモチベーションを維持するように心掛けた。

・発音検定

発音記号毎に模範CDを用いて練習させ、出来るようになったらALTの前で実際に発音する活動を行った。ALTには厳しめに判定してもらい、母音から子音まで2学期間をかけて行った。JTEが判断するよりも、ネイティブに発音をチェックされることで緊張感やクリアしたときの達成感を味わえたようである。スピーキングチャレンジと同様に発音出来るようになったらステッカーを与えた。

⑧ 異文化理解の2時間

異文化理解の2時間を利用したのがパターンプラクティスを利用したスピーキング力の養成と読解力の向上である。2年1学期～2学期にかけては中学校の英文法を会話レベルまで引き上げることを目標にした。読み書きに関しては中学校の英文法は十分に理解している生徒だが、それを英会話で使いこなすまでは難しいのが現状である。むしろ中学校レベルの文法事項を会話レベルで使えれば、英会話力としては相当の力を

持っていると考え。そこで基本的な文法事項から始まり、同じ文法項目を取り扱った文の主語や目的語をかえたり、疑問文や否定文に変えたりする訓練を行った。1 ページ当たり例文が10文あり、それを使えるようになったら JTE の所に来て発表するという形を取った。生徒の反応も良く、文法と会話のギャップを埋める活動で「楽しい」という感想が多かった。反省点としては JTE がチェックする時間が取れずに生徒を待たせてしまったり、継続してかつ集中して行わないと効果が表れにくい点があった。

3年次は主に多読に焦点を置いた。センター試験や2次試験ではかなりの量を読んで答える力が問われる。そのため英文を読むことに対する「苦手意識」をなくし読解力の「基礎体力」を付ける事を目標にした。英語科時代に使用した洋書が多数あり、それを引き続き利用した。読んだ日にちや、読んだ語数等を記録させ簡単な感想を書かせた。工夫したのは ALT にその感想や概要を述べるという活動である。生徒にとっては最初はかなり難しいものであったが、少しずつ慣れていった。毎回読んだ本に関して ALT に感想を述べるのは生徒・ALT 双方に負担がかかるので5冊～10冊に1回は報告させるようにした。英文の要約問題等に大変効果的であった。

5 これまでの成果について

英検については、全員の2級合格を目指していたが、最終的に22名中18人が合格(82%)という結果であった。不合格者についても「不合格A」という結果であった。英検全体の合格率が約25%であるため、英検合宿や上記の取り組みがある程度は功を奏した結果であると考えられる。また2級取得者も大学進学後に準1級までは取りたいというモチベーションが高い生徒が多いのも、全員で英検に向け取り組んだ成果である。推薦入試やAO入試等で英検を条件にしている大学等も多く、それを活かして進路実現をする生徒もいた。今後も高校3年生1学期での合格を目標にしていきたい。

当初は英検に加えて TOEIC 等も受験させる予定であったが、問題形式の違いなどもあって受験までは至らなかった。大学進学を考えた場合にはセンター試験との類似性を考え、まずは英検2級を目指すのが妥当であると考え。TOEIC に関しては英語コースの中でも英語系の大学、しかも早期(2年生前半)に2級に合格しており、推薦やAOでの入試を考えている生徒に対しては受験を奨励していく必要がある。

入試に関しては、英検のための合宿やそれに向けての雰囲気作りのおかげで、勉強する雰囲気が早めにできた。またAO入試で英語での講義を聞き、それをレポートとしてまとめる試験等を課す大学の試験などにも対応できた。

6 英語コースの今後と課題について

英語コース1期生が卒業し、課題なども見えてきている。クラス編成の在り方や推薦条件など、今後検討が必要である。英語コース1期生の進学先は外国語学部系等だけでなく、文系の多くの学部にもわたった。英語コースの中心は英語になるが、英語力を高め、文系の四年制大学に進学したい生徒にも英語コースの選択をすすめていきたい。

また、このような活動や成果を中学生にも知ってもらい、志布志高校で英語を学び、大学受験に結びつけたいと考える生徒を増やせるようなPRや取組も行っていきたい。

国語科学習指導案

日時：平成25年11月11日(月)6校時

学級：志布志高等学校2年3組

男子4名女子37名 計41名

授業者：志布志高等学校 教諭 山之口輝美

1 単元名 評論(二)

2 育成を目指す能力

(1) 身につけさせたい力

文章内容を叙述に即して読み取ることを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりすること。(学習指導要領 現代文(1)ウ)

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
①テーマや筆者の考え方に興味を持ち、自分自身の考えを深めたり、発展させたりしている。	①文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。 ②自分の知識や経験、想像力を活かして具体的な例を考えることにより、読み深めることができる。	①本文中の語句を適切に理解している。 ②現実と仮想の関係性を理解している。

3 使用教材

茂木健一郎 「現実と仮想」(三省堂『高等学校 現代文』)

4 教材観

今回使用する教材は、生徒にとっても身近なものである現実と仮想を題材とし、両者の意味と関係性について述べている。抽象的な表現が多く、論旨を読み取ることがやや難しい。評論文を苦手とする生徒にとって、筆者の意見や主張を読み取るとは難しいと思われるが、この教材を用いて、本文の叙述や具体例の内容を的確に読み取っていけば、抽象的な表現が多い文章でも筆者の意見や主張を読み取ることができるということを教えていきたい。

5 生徒観

文系習熟度クラスであり、国語に対する興味・関心は高い。また、発問に対しては積極的に自分の考えを発表しようとする生徒が多い。評論文に関しては文章を読んで、筆者の意見や論旨を読み取ることに對して難しさを感じている生徒もいる。今回は叙述や具体例を丁寧に読み取ることで、論旨を確実に読み取れるということを実感させたい。

6 能力育成のプロセス

時	評価規準 (番号は、2(2) の評価規準の番号に 対応)	主たる学習活動 国語科における言語活動	指導上の留意点
1	知識・理解①	○本単元の目標・内容・評価について理解する。 ○本文を読み、内容ごとに四つに段落分けをし、それを通して大まかな全体像を把握する。	・学習の見通しを持たせる。 ・国語辞典を引かせ、単語の意味を確実におさえさせる。
2 ・ 3	知識・理解① ・ 読む能力①	○1段落～2段落の内容を理解する。 ○意味段落ごとの読み取りを行い、要旨をまとめる。	・人間の意識の働きを整理させる。 ・人間にとって「現実」と「仮想」を区別することの重要性を読み取らせる。
④ 本 時	読む能力① 読む能力② 関心・意欲・態度 ①	○3段落の内容を理解する。 ○具体例の内容を正確に読み解くことで、筆者の主張を理解する。	・人間がどのように「現実」を捉えているかを理解する。 ・筆者の主張を自分自身の体験等と関連付けながらとらえさせる。
5	知識・理解②	○4段落の内容を理解する。	・筆者が考える「現実」と「仮想」の定義は何かを理解させる。

7 本時の指導と実際の評価

(1) 本時の目標

- ア 筆者の考えを本文の叙述に即して的確に読み取ることができる。
- イ 自分の知識や経験，想像力を活かして具体的な例を考えることにより，読み深めることができる。

(2) 取り上げる言語活動

文章の内容を叙述に即して的確に読み取り，必要に応じて筆者の主張を文章にまとめたり話し合ったりすること。

(3) 本時の評価規準と評価方法

- ア 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。【読む能力①】
- イ 自分の知識や経験，想像力を活かして具体的な例を考えることにより読み深めることができる。
【読む能力②】
テーマや筆者の考え方に興味を持ち，自分自身の考えを深めたり，発展させたりしている。
【関心・意欲・態度①】
…プリント記述の点検

(4) 本時の指導過程 (4/5)

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点	評価の実際
導入	○前回までの授業の内容を復習する。 ○本時の学習内容について理解する。	5	・前回の授業の内容を，教科書やノートを見て振り返らせる。 ・本時の学習内容を確認させる。	・ノート記述の確認
展開	○3段落を通読する。	5	・指名読みをさせる。 ・筆者の考えがどこに書かれているかを意識させながら読ませ，線を引かせる。 ・3段落の冒頭から，「現実とは何か」について，筆者の意見が書いてあることを押さえさせる。	・机間指導
	○段落の内容を理解する。	15	・現実と仮想の区別は，後発的に立ち上がることを理解させる。 ・具体例を確実に読み取らせ，	・ノート記述の点検

展開	○前回までの授業内容も踏まえ、 筆者が「現実」というものをどの ように定義しているかをまとめ る。	5	現実を認識するには、「感覚」 が大切になっていることに 気付かせる。 ①人間の脳内現象である ②人間の生存の基礎である ③人間が生まれた時から区 別できているものではない ④現実を捉える際「感覚」が 重要になっている 以上の4つを押さえさせる。	・プリント記述の点 検 ・机間指導
	○筆者の主張を、自分自身の体験 や知識と関連付けて考える。	10	・生徒自身が実際に現実を認識 する際、「感覚」を基にして いることがないか考えさせ る。	・プリント記述の点 検
	○考えた意見を発表する。	5	・自分が書いた意見を、ペアや グループで意見交換させる。	
終末	○本時のまとめと次時の予告。	5	・板書やノートを見て、本時を 振り返らせる。	

(5) 評価

- ・筆者の「現実」の定義を本文の叙述に即して的確に読み取ることができたか。
- ・現実を認識する際、「感覚」を基にしていることがないかということについて、自分の知識や経験、想像力を活かして、具体的な例を考えることにより読み深めることができたか。

(参考文献)

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』(2010年 教育出版)

『高等学校 新学習指導要領の展開 国語編』鳴島甫・高木展郎著 (2010年 明治書院)

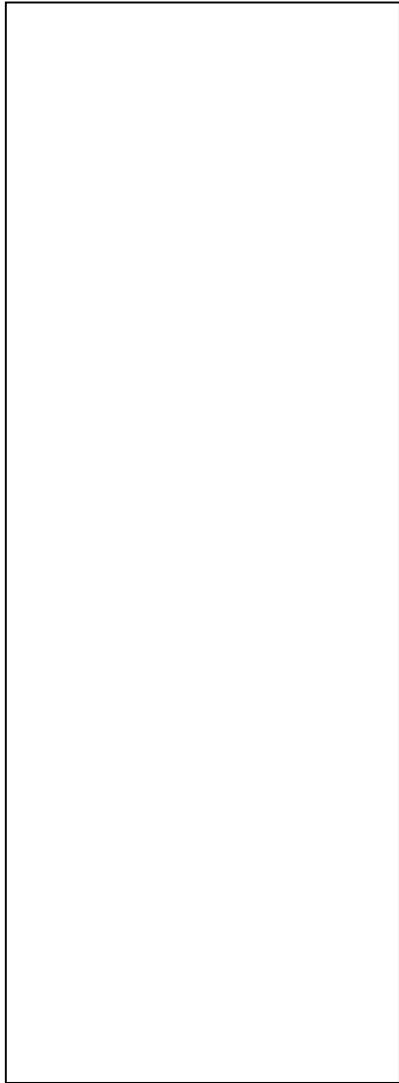
『国語授業を変える 評価規準をどう創るか 中・高等学校編』西辻正副編著 (2011年 明治書院)

8 研究授業を終えて

・反省点としては、生徒が読み取った文章の内容を自身の体験と結びつけ、文章に書いたことを発表することによって更に深く理解することを中心に行いたかったが、教師側の説明が多くなってしまいそこまで十分に時間を取ることができなかったことである。また、説明をし過ぎた部分があることにより、生徒の考えを狭める結果にも繋がってしまった。文章の記述に即して筆者の意見を正確に読み取る力を生徒に身につけさせるためにも、教師の発問や説明をさらに練る必要があると改めて感じさせられた。

日頃の授業からペアで発表し、意見を言うという言語活動は行っていたので、今回の研究授業でもしっかり発表し意見を言えていた。これからも、生徒自身が積極的に自分の意見を発表する機会を設けていきたい。またペアでの活動だけでなく、グループでの発表もできれば、さらに多くの意見に触れ、理解も深まったと考えるので、そちらも積極的に行っていきたい。

一 筆者が「現実」について説明している部分を教科書の二・三段落から抜き出し、まとめてみよう。



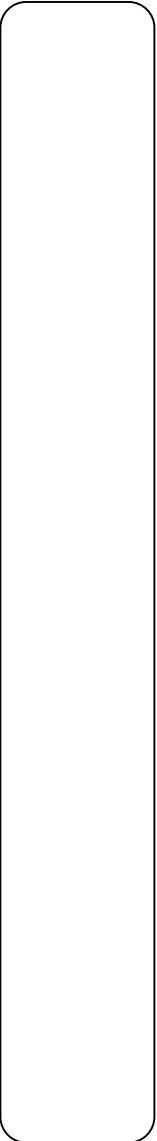
二 自分自身が物事を「現実」であるか「仮想」であるかを認識する時のことを具体的に考えよう。

例えば：サンタクロース↓

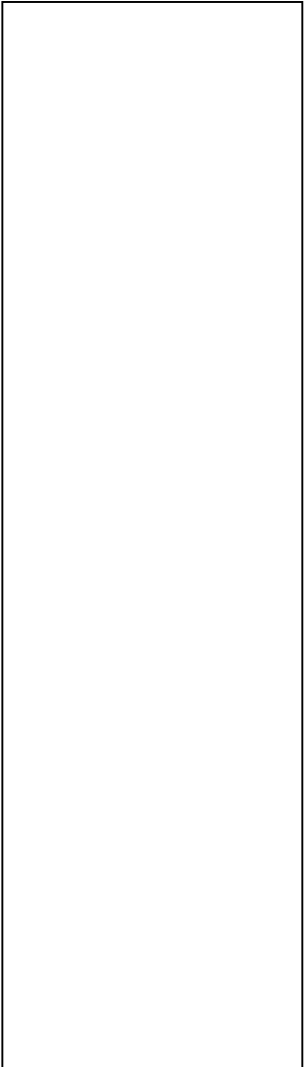


である。

なぜ、そのように説明できるのか？



例にならって、自分の考えをまとめてみよう。



【一】 筆者が「現実」について説明している部分を教科書から抜き出し、まとめてみよう。

「現実」とは人間の脳内の神経細胞の活動が作り出した脳内現象である。そして、人間の生存の基礎となっている。人間は生まれた時から「現実」を明確に認識しているわけではない。触覚などの感覚により現実の世界を認識しているのである。

【二】 自分自身が物事を「現実」であるか「仮想」であるかを認識する時のことを具体的に考えよう。

例えば…サンタクロース↓

仮想

である。

なぜ、そのように説明できるのか？

・実際にソリに乗って、空を飛んでいる姿を見ることができていないから。
つまり、視覚でとらえることができないから。

例にならって、自分の考えをまとめてみよう。

数 学 科 学 習 指 導 案

日 時 平成 25 年 11 月 11 日 (月) 第 6 校時

対象学級 2 年 1・2 組 25 名

指 導 者 福田大樹

1 単元名：数学Ⅱ 微分・積分の考え 曲線と接線で囲まれた部分の面積

2 単元設定の理由

微分・積分の概念は、いろいろな事象を数理的に扱うのに有用である。関数については中学校 2 学年で一次関数の変化の割合とその特徴について、3 学年で関数 $y = ax^2$ の変化の割合とそのグラフの特徴について、そして数学Ⅰで一般の二次関数についてそのグラフの特徴について学習しており、関数の値の変化について理解を深めている。本単元では、簡単な整式で表される関数に限定して、面積などの具体的な事象の考察を行いながら微分・積分の考えを理解させ、その考えの有用性を認識できるようにするとともに、関数の値の変化を調べるなど事象を数学的に考察し表現する能力を養う。

3 生徒の実態

2 年普通科理系の上位層を中心とするクラスである。授業は生徒に教科書を予習させて進めており、定義や用語の確認は予習時に理解済みとして扱っている。例題の解説と練習問題演習が授業の中心であるが、計算力不足と記述力不足が懸念されるため、練習問題の演習に時間を割き、机間指導・生徒同士の教え合い・板書活動の時間を多く取る工夫をしている。男女共に発問に対して積極的に応じるなど、数学的な興味関心が高い生徒が多い。基礎学力の定着が不完全であるため、今後は反復練習を継続して行うことが課題である。

今回の授業では、生徒の興味関心を高める工夫をしながら、微分・積分の概念を理解させたい。

4 単元の目標

微分の考えを深めるために、まず多項式関数の値の変化などを考察させる。その際、関数 $f(x)$ の値の変化を極限の考えを用いて調べる活動を行い、微分係数や導関数の概念を導く。微分の考えに関連し、積分の考えについても理解させ、直線や関数のグラフで囲まれた図形など、簡単なものについてその面積を求めることができるようにする。定積分の応用として、いろいろな図形の面積を定積分を計算して求めさせ、積分の考えの有用性を認識させたい。

5 単元の指導計画

使用教科書：高等学校数学Ⅱ（数研出版）

第 6 章 微分法と積分法		時間
第 1 節 微分係数と導関数	微分係数	2
	導関数とその計算	2
	接線の方程式	2
第 2 節 関数の値の変化	関数の増減と極大・極小	3
	関数の増減・グラフの応用	4
第 3 節 積分法	不定積分	2
	定積分	3
	定積分と図形の面積	4 (本時 4 / 4)

6 本時の実際 (22/22)

(1) 題材 微分・積分の考え 曲線と接線で囲まれた部分の面積

(2) 目標 グラフの位置関係を把握した解法を身につける。

a グラフの概形を描くことができる。【数学的な技能】

b 位置関係を表す性質を立式できる。【数学的な見方・考え方】

(3) 指導の実際

過程 時間	学 習 活 動 ● 教師 ○ 生徒	◎ 指導上の留意点 ○ 評価の観点
導入 3分	● 例題の板書と前時までの既習事項の復習をする。 ○ 本時の例題の内容を踏まえて既習事項を再確認する。	◎ これまでの問題文と比較して、どんな考え方が有効かを考えさせる。 ○ 既習事項をふまえて考えたか。
展開1 20分	● 教科書例題の板書と解説 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 曲線 $y=x^3-4x$ 上に点A(1, -3)をとる。 (1) 点Aにおける接線 l の方程式を求めよ。 (2) 曲線 $y=x^3-4x$ と接線 l で囲まれた部分の面積 S を求めよ。 </div> ● 発問1 「面積を求める際に気をつけるポイントは何であったか」 例 積分範囲の確認・グラフの上下関係・面積は正の値になる etc ● 発問2 「グラフの上下関係はいかに判断すれば良いか」 例 グラフの概形(増減)を描く・交点を求める etc ○	◎ 事前に問題は板書しておく。 ◎ 接線の公式など既習事項の利用ポイントを確認する。教科書の練習問題を確認させる。 ◎ 概形図と見比べながら進めることでその利用頻度と価値を意識付ける。 ○ 概形図で考えようとしているか。図に書き込む等の工夫をしているか。【a】 ○ 計算過程に不足は無いか、公式の覚え間違い等は無いか。立式後は丁寧な計算を心がけたか。【b】
展開2 20分	● 応用問題の板書 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> (3) (1)と傾きの等しい別の接線の方程式を求めよ。 (4) (3)の直線と曲線 $y=x^3-4x$ で囲まれた部分の面積 S を求めよ。 </div> ● 発問3 「解法のポイントを挙げてみよう。」 ○ グループは作らないが前後と話し合いながら立式の方法を探る。 例 交点の座標の代入・グラフの位置関係 etc ● 生徒に適宜発問しながら問題解説	◎ 概形図を描く際には、生徒に発問しながら進める。図で確認するポイントを強調する。 ◎ (3), (4) から気づいた点を全体に尋ねてみる。 ○ (1), (2) の解法を利用できているか。【b】
展開3 5分	● 数学Ⅲの演習問題(変曲点の演習)を紹介して解法の視点を考えさせる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> (5) 曲線 $y=x^3-4x$ は点(0, 0)について点対称であることを示せ。 </div> ● グラフの対称性に気づかせて、(4)の結果を振り返る。 ○ 教科書問題を解く <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 曲線 $y=x^3+x^2-2x$ と、その曲線上の点(1, 0)における接線で囲まれた部分の面積 S を求めよ。 </div> ● 机間指導しながら板書する生徒を指名する。	◎ 数学Ⅰの判別式や二次不等式の略図を提示する。今後の数学Ⅰ等の振り返りに利用させる。 例 二次方程式、二次不等式、円と直線 etc ◎ グラフの対称性を再考させる。数学Ⅰ、Ⅱの復習に利用させる。 ◎ 面積の対称性と、変曲点の存在に気づかせる。 ○ 今後の問題解決に利用できそうか。【b】
終末 2分	● 本時のまとめと、次回の予告をする。	◎ 微分積分を利用した図形と方程式の復習と数学Ⅲへ向けての計算の工夫や考え方をまとめる。

7 評価

a グラフの概形を描くことができたか。【数学的な技能】

b 位置関係を表す性質を立式できたか。【数学的な見方・考え方】

8 板書計画と問題の解答

曲線と接線で囲まれた部分の面積

例 曲線 $y=x^3-4x$ 上に点A(1, -3)をとる.

(1) 点Aにおける接線 l の方程式を求めよ.

(解) $y'=3x^2-4$ より,
 点Aにおける接線の傾きは, -1
 求める接線の方程式は,
 $y=-(x-1)-3 \quad \therefore y=-x-2$

(2) 曲線 $y=x^3-4x$ と接線 l とで囲まれた部分の面積 S を求めよ.

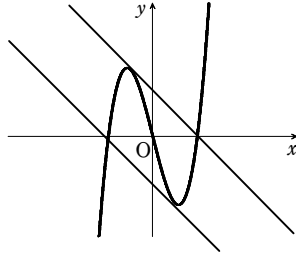
(解) $\begin{cases} y=x^3-4x \dots \textcircled{1} \\ y=-x-2 \dots \textcircled{2} \end{cases}$
 $\textcircled{1}, \textcircled{2}$ より y 消去して
 $x^3-4x=-x-2$
 $x^3-3x+2=0$
 $(x-1)(x^2+x-2)=0$
 $(x-1)(x-1)(x+2)=0$
 $x=1, -2$
 $y'=0$ より
 $3x^2-4=0$
 $\therefore x=\pm\sqrt{\frac{4}{3}}$
 求める面積は,
 $\int_{-2}^1 \{(x^3-4x)-(-x-2)\}dx$
 $=\int_{-2}^1 (x^3-3x+2)dx$
 $=\left[\frac{1}{4}x^4-\frac{3}{2}x^2+2x\right]_{-2}^1$
 $=\left(\frac{1}{4}-\frac{3}{2}+2\right)-\left(\frac{16}{4}-\frac{3\cdot 4}{2}-4\right)$
 $=\frac{27}{4}$

※ 連立方程式の利用

※ 3次方程式の解法
 数値代入法

※ 極値を与える x の値と
 接点との位置関係

※ 補題 練習38(3)
 $y=x^2(x-3)$ と x 軸
 で囲まれた面積
 $\int_0^3 -x^2(x-3)dx$

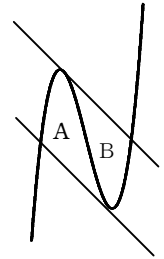


(3) (1) と傾きの等しい別の接線の方程式を求めよ.

(解) $y'=3x^2-4$ について,
 $y'=-1$ より
 $3x^2-4=-1 \quad \therefore x=\pm 1$
 もうひとつの接点は, $(-1, 3)$
 求める接線の方程式は,
 $y=-(x+1)+3 \quad \therefore y=-x+2$

(4) (3) と曲線 で囲まれた面積を求めよ.

(解) $\begin{cases} y=x^3-4x \dots \textcircled{3} \\ y=-x+2 \dots \textcircled{4} \end{cases}$
 $\textcircled{1}, \textcircled{2}$ より y 消去して $3x^2-4=0$
 $\therefore x=\pm\sqrt{\frac{4}{3}}$
 $x^3-4x=-x+2$
 $x^3-3x-2=0$
 $(x+1)(x^2+x+2)=0$
 $(x+1)(x+1)(x-2)=0$
 $x=-1, -2$
 $y'=0$ より
 $3x^2-4=0$
 $\therefore x=\pm\sqrt{\frac{4}{3}}$
 求める面積は,
 $\int_{-1}^2 \{(-x+2)-(x^3-4x)\}dx$
 $=\int_{-1}^2 (-x^3+3x+2)dx$
 $=-\int_{-1}^2 (x^3-3x-2)dx$
 $=\left[\frac{1}{4}x^4-\frac{3}{2}x^2-2x\right]_{-1}^2$
 $=\left(\frac{1}{4}-\frac{3}{2}-2\right)-\left(\frac{16}{4}-\frac{3\cdot 4}{2}-4\right)$
 $=\frac{27}{4}$



※ 積分区間の性質
 $\int_a^b f(x)dx = -\int_b^a f(x)dx$

9 研究授業を終えて

普段の授業における教科書例題や練習問題に、オリジナルの設定問を追加してさらに発展的な理解を深めさせるような授業をこの1年間で研究した。研究を踏まえて授業を実施していく中で、授業中取り入れる問題の研究時間だけでなく生徒の現状の実力を正確に把握することが大事であると改めて感じるようになった。授業の中で生徒に発問する段階で既習事項の定着度を確実に押さえ、授業の重点ポイントを修正しつつ問題を挿入して進行していかねばならないと感じた。また、今回の研究を活かして次々と問題を設定し積極的に研究授業を実施していきたいと思う。

Teaching Plan

1. Date: 6th period, Friday, November 22nd, 2013
2. Class: 2-3 English Course (15 girls) in Kagoshima Pref, Shibushi H.S.
3. Instructor: Satoshi Miyazaki
4. Subject: English II
5. Text book: COSMOS English Course II Lesson7 "Where Have All the Flowers Gone?"
6. Class Survey:

All the students in this class are honest and have good personalities. They have high motivation to improve their working knowledge of English. At the beginning of a new fiscal year, in April, they were a little too shy to express themselves in English, even in Japanese in front of the class. Gradually, their willingness to express themselves in English has been getting better through a lot of presentations they give in the class and elsewhere. For example, they presented their skits at the cultural festival and a junior high school speech contest. Also they often come to the teachers' room during lunch time to talk to ALTs about their daily life, the English books they have read and so on. They derive great pleasure from communicating with ALTs. It motivates them greatly.

As to the English ability of the students, almost all the students have passed the pre-second grade of the STEP test and one of the students has already passed the 2nd grade. All the students want to go on to universities in the future.

7. About the material

This lesson is involved with the message of peace. Through the song "Where Have All the Flowers Gone?", I'm going to have students understand the difficult situation in America in the 1960s. The image of this song is deeply connected with the Vietnam war and a lot of people came to sing this song as a protest against war. I hope the students will sympathize with the pain of the soldiers and their families.

Also I want them to face up to the reality that wars and terrorism are currently happening around the world. Furthermore, I want them to be thankful for the present situation they have, that is, they live in Japan peacefully. I want them to think deeply about what they can do for world peace.

8. Allotment

Period

1st	Introduction (pp.72 ~ 81)
2nd	Part 1 (pp.72 ~ 73)
3rd	Part 1 (pp.74 ~ 75)
4th	Part 2 (pp.76 ~ 78) This period
5th	Part 3 (pp.79 ~ 80)
6th	Grammar & Comprehension exercises for the whole lesson (p.81 ~ 85)

9. Criteria for evaluation

A. Interest, willingness and a positive attitude towards communicating in English	B. Ability to express themselves in English	C. Ability to understand English	D. Knowledge and understanding of language and culture
1 try to convey their opinions noting facial expression, eye contact and gestures. 2 try to listen to the speech making proper responses such as nodding, smiling, saying, "I think so," "O.K.," "Did you ?" etc.	1 can answer questions correctly 2 can convey their opinion using the various conjunctions or phrases.	1 can grasp the contents of today's lesson in English 2 can appreciate the verses of the song "Where have all the flowers gone?"	1 understand the situations in the U.S. in 1960's 2 understand the knowledge of the background about the Vietnam War 3 understand the meaning of new words and phrases

10. Teaching Procedure

Time	Stage	Instructor's activity	Students' Activity	Evaluation			
				R	L	W	S
20sec	Greetings	<ul style="list-style-type: none"> To greet the students 	<ul style="list-style-type: none"> To greet the instructor 				
5 min.	Introduction Review & Goal	<ul style="list-style-type: none"> To review the content of the last lesson To tell students the goal of today's lesson ① To grasp the content of part 2 ② To appreciate the verse of the song on p.76 ③ To appreciate the importance of peace through the Vietnam war 	<ul style="list-style-type: none"> To confirm the goal of today's lesson by listening to the instructor's explanation 		A2		
2 min.	Words quiz as warm-up	<ul style="list-style-type: none"> To read new words in Japanese 	<ul style="list-style-type: none"> To answer them alternately in Japanese in English 				D3
18 min.	Reading aloud & confirming the content	<ul style="list-style-type: none"> To read the passage To explain the grammar or phrases if necessary To ask the following questions about the passage. (p.76) ① "What did Joe do?" ② "According to the song, where have all the soldiers gone?" (p.77) ③ "When did this song become very popular?" ④ "What do you think the ideals of President Kennedy are?" etc. (p.78) ⑤ "How did people often change?" ⑥ "Why do you think the young soldiers began to sing the song?" ⑦ "Why do you think America was forced to reduce its military activities in Vietnam?" etc. To have students underline the most impressive verse on p.76 and ask them why 	<ul style="list-style-type: none"> To repeat after the instructor To answer the instructor's questions <ul style="list-style-type: none"> To underline the most impressive verse and answer the reason 	C1 C2 D1	A2		B1
8 min.	Writing activities	<ul style="list-style-type: none"> To give the handout for the writing activity To oversee the students 	<ul style="list-style-type: none"> To write their opinions about the content of part 2 				C2 D2 D3
8 min.	Pair Work	<ul style="list-style-type: none"> To let students make pairs and let them tell their opinions one by one To tell the students not to look at the script as much as possible To tell the students to use gestures and eye contact To tell the students to listen to the speech making proper responses which motivate the speaker to give their presentation 	<ul style="list-style-type: none"> To tell their own opinions one by one in the group To listen to the speech, making proper responses such as nodding, smiling saying "I think so," "O.K.," or "Did you ?" etc. 		A2		A1 B2
8 min.	Presentation	<ul style="list-style-type: none"> To motivate students to tell their opinions in front of the class To give feedback to students 	<ul style="list-style-type: none"> To give their opinion about the passage in part 2 in front of the class To listen to the speech, making proper responses which motivate the speaker to give their presentation 		A2		A1 B2 D3
40 sec.	Assignment	<ul style="list-style-type: none"> To announce what they should do for the next lesson 	<ul style="list-style-type: none"> To listen to the instructor 				

「研究授業を終えて」

本課のテーマがやや難しかったので、英語による表現活動について不安を持ちつつ研究授業を行った。しかし、生徒達は普段通り、間違いを恐れずに英語で自分の考えを述べてくれた。生徒達に助けられた研究授業だったと思う。これからも「英語による発信力」に焦点をあてた授業を続けていきたい。今後の課題は、模擬試験や大学入試と授業における言語活動をいかに有機的に関連づけるかということである。大きなテーマではあるが、本校英語科の職員とともにアイデアを共有しながら生徒達のために頑張っていきたい。

保健体育科学習指導案

授業日時 平成25年10月11日(金)6時間目
 対象 1年1・4組(男子11名 女子7名)
 場所 志布志高校グラウンド
 指導者 下山慎吾

1. 単元 ソフトボール

- ### 2. 単元目標
- ・チームにおける自己の役割を自覚し、互いに協力して安全に留意しながら練習や試合ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。[関心・意欲・態度]
 - ・投げる・捕る・打つといった基本動作を身に付け、それをゲームの中で生かせるようになるとともに状況に応じた作戦をとることができる。[運動の技能]
 - ・チームや自己の課題を発見し、課題解決に向けた練習に取り組むことができる。[思考・判断]
 - ・効果的な練習法、ルール、審判法を理解する。[知識・理解]

3. 指導にあたって

生徒の状況

男女共修の授業であるが、クラスはまとまりがあり、授業にも積極的に取り組む。ソフトボール・野球の経験者とそうでないものに技術的な差はあるものの楽しみながら取り組む姿勢がみられる。

4. 単元の指導計画 (全体13時間 本時 7時間)

時間	学習内容	学習活動
1	オリエンテーション(1)	・ソフトボール概要・チーム分け
2	オリエンテーション(2) 体ほぐし	・ウォーミングアップ、クーリングダウンの理解 ・いろいろな形のキャッチボールの工夫
3～5	試合	・各チームの力を知る ・自己の技能を知り、それぞれの課題を発見する
6	チーム別練習	・試合を通しての反省を行いチームの課題を設定し改善する ・練習内容の工夫
7～9	課題別練習	・個人の課題に対して、チームの枠を超えてグループ練習を行う。 ・教え方の工夫。 ・積極的な練習への取り組み。
10～13	試合	・練習したことを試合で生かす

5. 本時の学習

過 程	学 習 内 容 お よ び 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点
導 入 (10分)	用具の準備、グラウンドづくり 出欠確認・挨拶 準備運動 キャッチボール	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと挨拶をさせる。 ・生徒の健康観察をする。 ・全体リーダーの指示のもと可動域を大きく動かすことを意識させる。 ・相手を意識したキャッチボールを行うよう指示する。 	キャッチング・スローイングができる(技能)
展 開 (30分)	攻撃、守備、ゲームの基本の3グループに分かれて活動を行う。 [攻撃] ・カミ、打ちそこないをなくすには ・状況に応じたバッティング [守備] ・強い打球の処理 ・フライの捕球 ・捕球から送球へ [ゲームの基本] ・ソフトボール用語の理解 ・フォースプレイとタッチプレイの違い ・アウトカウントに対応した走塁 ・フェアとファールの違い ※別紙ワークシート参照	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ練習の意義。課題を明確にすることの大切さを説明する。 ・各グループのリーダーに本時の目標と練習内容を発表させる。 ・安全に十分配慮するように指導する。 ・活動が停滞していたり、うまくいかない場合は助言や指導を行う。 	仲間と協力し、互いにコミュニケーションをとりながら練習をしようとする。 (関心・意欲・態度) 各グループの課題により評価
ま と め (10分)	本時のまとめ 次時の課題確認 各グループで反省を行う。 グループのリーダーが発表する。 挨拶 後片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を評価し次の活動への助言や指導を行う。 ・健康状態を確認する。 ・しっかりと挨拶をさせる。 	

芸術科(音楽Ⅱ)学習指導案

平成25年11月18日(月) 5限
2年1組 男子3名 女子5名 計8名
指導者 教諭 吉村 奈緒子

1 題材「ヴァイオリンに親しむ」

教材 SUZUKI METHOD ヴァイオリン指導曲集 Vol.1 鈴木慎一著 より抜粋
『こぎつね』, 『ちょうちょう』

2 題材の目標

ヴァイオリンの響きに関心を持ちながら、意欲的に活動に取り組み、姿勢やボーイングを工夫し、曲にあった音色で簡単な旋律を演奏する。

3 題材について

(1) 題材設定の理由

生徒は中学校まで、リコーダーやギターなどの楽器演奏の経験をしている。また、管楽器や打楽器は部活動や趣味で経験したことのある生徒は多いが、ヴァイオリンは全員初めてである。

ヴァイオリンは、落ち着いた深みのある豊かな音色と長いフレージングが特徴であり、オーケストラの中心をなす楽器である。しかし、弦に対する弓の当て方や圧力のかけ具合、ギターと違ってフレットがないため、初心者には正確な音程が取りづらい面もある。

実際にヴァイオリンに触れることで、生徒の音を受容する力や奏法への興味・関心も一段と高まると考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

2年1組は、男子3名・女子5名の計8名であり、学習に対する意識は高い。1年時に「ヴァイオリンに挑戦！」で、8時間程度体験し、ヴァイオリンが演奏できた喜びを多くの生徒が感じ、少ない授業時数の中、主体的に活動していた。また、楽器の構え方やボーイングに難しさを感じている生徒もおり、まだまだ課題も多い。

(3) 指導上の留意点

ア 正しい姿勢と左手の運指やボーイングなどの基本的な奏法を身につけさせるために、鏡を見て確かめたり、模範の姿勢(写真)と照らし合わせてまねさせるなどする。

イ 曲にあった強弱やフレージングで演奏できるようにするために、フレーズを謡わせてイメージを高めたり、他の人の演奏に合わせて歌ったりさせるようにする。

ウ アンサンブルに対する理解やよりよい表現への意欲を高めるために、相互に鑑賞させ、気付いたことを意見交換させるようにする。

4 題材の評価基準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価基準	ヴァイオリンの演奏に興味・関心を持ち、積極的かつ自主的に演奏に取り組もうとしている。	音程やリズム、フレージングを正しく表現するために、ボーイングや左手の運指の仕方を工夫している。	強弱やレガートなど豊かな音楽表現をつくりだすための技能を身につけている。
具体の評価基準	①楽器の扱い方に注意しながら、正しく構えて演奏しようとしている。 ②演奏課題に積極的に取り組もうとしている。	①正しい音程でボーイングができるよう奏法を工夫している。 ②強弱やリズム、フレージングに気をつけて奏法を工夫している。 ③縦の線を揃えたり、音程を感じながら奏法を工夫している。	①豊かな響きをつくるボーイングができる。 ②強弱の変化やフレージングを大切にしたボーイングができる。 ③他のパートとの響き合いを感じたアンサンブルができる。

5 指導計画(全6時間)

次	時	学習内容及び指導概要	評価
第1次	1時間	○1年時の復習 ・楽器の扱い方と構え方、姿勢に注意する。 ・正しい音程でボーイングの練習をする。 ・強弱やリズムをつけて音階の練習をする。	アの① 行動観察 イの① 行動観察 ウの① 行動観察
第2次	2時間	○『ちょうちょう』『こぎつね』 ・ゆっくりと正しい音程で演奏する。 ・強弱やフレージングに気をつけながら演奏する。 ・グループごとに演奏し、お互いに感想を述べ合う。	アの② 行動観察 イの② 聴き取り ウの② グループ練習観察
第3次	3時間	○『ちょうちょう』『こぎつね』での2部合奏 ・2つのパートを練習する。 ・強弱やフレージングに気をつけながら演奏する。 ・グループごとに演奏し、お互いの感想を述べ合う。 ・全体で録音をし、良い点や改善点を確認する。	アの② 行動観察 イの③ 行動観察 ウの③ グループ練習観察

6 本時(3 / 6)

(1)目 標

正しい音程やリズムで強弱やボーイングに気をつけ、周りの音を聴きながらアンサンブルをする。

(2)指導の実際

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点 ◇評価
導入	10	1 前時までの復習をする。 ・楽器の構え方, 弓の持ち方に気をつける。 ・ボーイング及び音階の練習をする。 2 本時の学習目標を確認する。 「お互いの響き合いを感じながら演奏をしよう」	・楽器の構え方, 弓の持ち方で気をつけることを問いかけ, 発表させる。
展開	35	3 『こぎつね』を練習する。 ①メロディーを確認する。 ②メロディーを個人練習する。 ③グループに分かれて練習する。 ④グループごとに発表する。	・ボーイングに注意しながら, 練習をさせる。 ・移弦をスムーズにできるように, 運指の練習をさせる。 ・正しい音程とリズムで演奏できているか, 確認をさせる。【◇ア②】 ・運指やボーイング, 音程に気をつけるためにグループに分かれて練習をさせる。 【◇イ②, ウ②】 ・他のグループの演奏を聴いて, 感想を発表させる。
終末	5	4 本時の学習を生かして全員で演奏をする。 5 本時のまとめと次時の説明をする。	・本時で学習したことを表現に生かしているか。

数学科学習指導案

日 時	平成 25 年 11 月 26 日(火) 第 2 校時
場 所	2 年 1 組教室
対 象	2 年 1・2 組 25 名 (男子 14 名, 女子 11 名)
授業者	石山 弘二
教 材	高等学校 数学 B 数研出版

1. 単元名

第 1 章 平面上のベクトル

2. 単元の目標

- ・平面上のベクトルの概念を理解し, 基本的な用語・記号に習熟する。
- ・ベクトルの加法・減法および実数倍について理解し, それらの演算ができるようにする。
- ・1 次独立である 2 つのベクトルの 1 次結合として, 任意のベクトルが表現できることを知る。
- ・ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し, それらを平面図形の性質などの考察に活用できるようにする。
- ・位置ベクトルについて知り, いろいろな図形の問題を位置ベクトルを利用して解くことができるようにする。

3. 単元の指導計画

第 1 章 平面上のベクトル (全 18 時間)

第 1 節 ベクトルとその演算 …… 10 時間

第 2 節 ベクトルと平面図形 …… 8 時間 (本時 3 時間目)

4. 生徒の実態

2 年普通科理系の上位層を中心とするクラスである。四年制大学や上級学校への進学を希望する生徒がほとんどで, 数学の学習の重要性を十分に理解し, 積極的に授業へ取り組んでいる。普段の授業では教科書の例題解説や問題演習, 生徒による板書を通して, 論理的思考力や記述力, 計算力の向上を図っている。

5. 本時の実際

(1) 題材 交点の位置ベクトル

(2) 目標 ベクトルの分解の一意性を理解し, 計算に利用できる。(数学的見方や考え方)

線分上の点を, 線分を $s : (1 - s)$ に内分する点として処理できる。(数学的な技能)

(3) 指導の実際

過程 時間	指導内容と学習活動 (○教師, ●生徒)	□ 指導上の留意点 ■ 評価基準
導入 5分	○ 前時までの復習として, 内分点・外分点の位置ベクトル, ベクトルの分解の一意性について口頭で答えさせる。	
展開 I 20分	<p>応用例題 4</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>△OABにおいて, 辺OAの中点をC, 辺OBを2:1に内分する点をDとし, 線分ADと線分BCの交点をPとする。$\overrightarrow{OA}=\vec{a}$, $\overrightarrow{OB}=\vec{b}$とするとき, \overrightarrow{OP}を\vec{a}, \vec{b}を用いて表せ。</p> </div> <p>○ 内分点の位置ベクトル, ベクトルの分解の一意性に注目させて, 交点の位置ベクトルを示す。</p> <p>● 練習 31 に取り組む。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>△OABにおいて, 辺OAを3:2に内分する点をC, 辺OBを1:2に内分する点をDとし, 線分ADと線分BCの交点をPとする。$\overrightarrow{OA}=\vec{a}$, $\overrightarrow{OB}=\vec{b}$とするとき, \overrightarrow{OP}を\vec{a}, \vec{b}を用いて表せ。</p> </div> <p>○ 生徒を指名し, 板書させる。 ● 板書し, 要点を説明する。 ○ 説明が不足している部分があった場合, 補足する。</p>	<p>□ 図を利用し, 視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>□ 内分点の位置ベクトル, ベクトルの分解の一意性について理解できているか。</p> <p>□ 机間指導をし, 図を利用できているか。</p> <p>■ 線分上の点を, 線分を $s:(1-s)$ に内分する点として処理できる。 (数学的な技能)</p> <p>■ ベクトルの分解の一意性を理解し, 計算に利用できる。 (数学的な見方や考え方)</p>
展開 II 20分	<p>○ 演習プリントを配布する。 ○ 隣同士の机を並べて, ペア活動をさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【発展問題】 練習 31 において, 直線 OP と線分 AB との交点を Q とする。</p> <p>(1) \overrightarrow{OQ} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。 (2) AQ : QB を求めよ。 (3) △OAQ と △OBQ の面積比を求めよ。</p> </div> <p>○ 生徒を指名し, 板書させる。 ● 板書し, 要点を説明する。 ○ 共線条件より, $\overrightarrow{OQ} = k\overrightarrow{OP}$ (kは実数) と表せられることを確認する。</p>	<p>□ 3点が一直線上にある条件(共線条件)を理解しているか。</p> <p>□ 線分上の点の位置ベクトルにおける係数が満たすべき条件を理解しているか。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内分点の位置ベクトルと照らし合わせて $AQ : QB$ の比に気付かせる。 ○ 辺の比から面積比に気付かせる。 (③については、経過時間を見ながら、時間が不足しそうな場合は、次時にまわす。) ○ 説明が不足している部分があった場合、補足する。 	
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習内容について確認する。 ○ 次時の予定を確認する。 	

「家庭基礎」学習指導案

日 時 平成25年10月29日火曜日 7校時
対 象 普通科 1年4組 32名
場 所 2棟1階 被服室
教 科 書 家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）
履修単位 2単位
指 導 者 藤野 聡美

1 単元名 第5章 食生活をつくる

2 単元の目標

健康で安全な食生活を営むために必要な栄養，食品，調理及び食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，生涯を見通した食生活を営むことができるようにする。

3 指導計画

領域名 第5章 食生活をつくる（全21時間）

- 単元名 ①食生活について考える……………2時間
②食事と栄養・食品……………4時間
③食生活の衛生と安全……………2時間（本時1／2時間）
④生涯の健康を見通した食事計画……………2時間
⑤調理の基礎……………8時間
⑥これからの食生活……………3時間

4 題材名 食生活の衛生と安全 ～手作り清涼飲料水から食品添加物について学ぼう～

5 題材設定の理由

(1) 題材観

本題材は，学指導要領（2）のア「食事と健康」を踏まえて設定したものである。食生活分野の学習において，調理の基礎や調理実習は生徒の興味関心が高いが，栄養や食品の安全，衛生管理は興味が低い傾向にある。身の回りに多くの食品が溢れる現在，自分にとって安全な食品を自らの判断で取捨選択する力を養う必要がある。授業の中では学びを日常生活と結びつけるために，身近な商品を例に挙げ食品表示に目を向けさせるとともに，食品添加物の役割を理解させ，食生活の充実向上を図る能力と態度を育てる。

(2) 生徒観

本クラスの生徒は，明るく活発で教師の問いかけに対する反応がとても良い。しかし，座学による説明が長く続けると，集中力がもたないことがある。それを踏まえ，今回は実験実習を取り入れることで生徒の興味関心を引きつけやすい授業構成にした。本クラスでアンケート調査を行ったところ，「あなたは食品添加物を知っていますか」という問いに対し，「はい」と答えた生徒が78%（25／32人中）であった。また，「食品を購入するとき，食品表示を見

ていますか」という問いでは「毎回見る」が0.3%（1人）、「たまに見る」が68%（22人）、「全く見ない」が28%（9名）という結果だった。さらに、「あなたは果汁が入

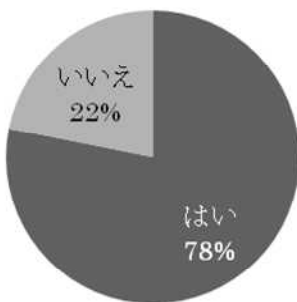
ったジュースを購入する際、何を規準にして購入するか」という問いで最も多かった回答は、「値段」が37%（12名）次いで「果汁含有量」が28%（9名）、「普段飲んでいるもの」が25%（8名）であった。以上のことから、食品添加物についてはある程度知っている生徒が多い反面、食品表示や食品添加物を意識して購入する生徒は多くはない。本時で食品添加物の役割や身体に及ぼす影響について理解させると共に、食品表示を見て購入することの大切さについても触れていきたい。

(3) 指導観

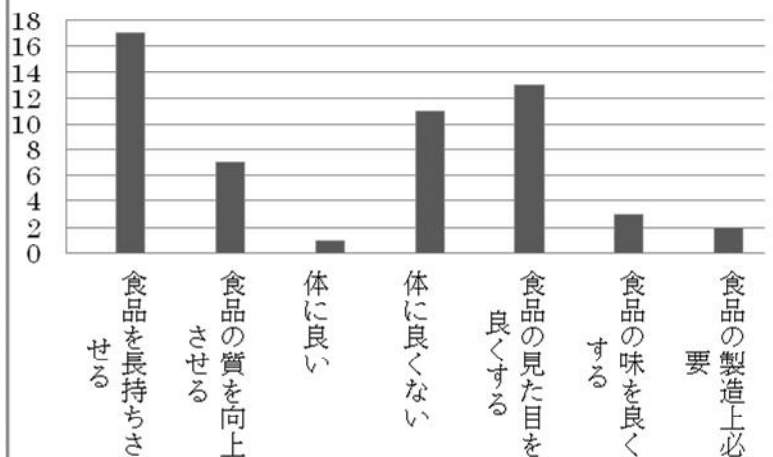
生徒が主体的に健康で安全な食生活を営むことができるような授業を展開する必要があるため、普段から学習内容を出来るだけ身近な事柄と関連づけ、生徒が意欲的に授業に取り組めるよう実験実習を多く取り入れている。また、グループ活動により実感を伴う体験的な学びを通して、自分の意見を述べたり人の意見を聞いたりするなど、コミュニケーション能力向上の機会を増やしている。本題材を通し、今後の食行動がよりよいものとなるよう指導していきたい。

〈アンケート結果〉

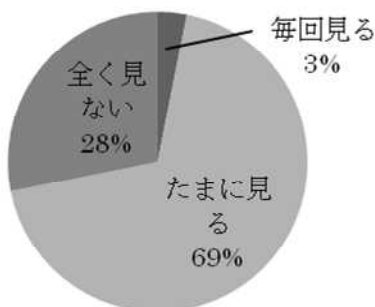
1. 食品添加物という言葉を知っているか。



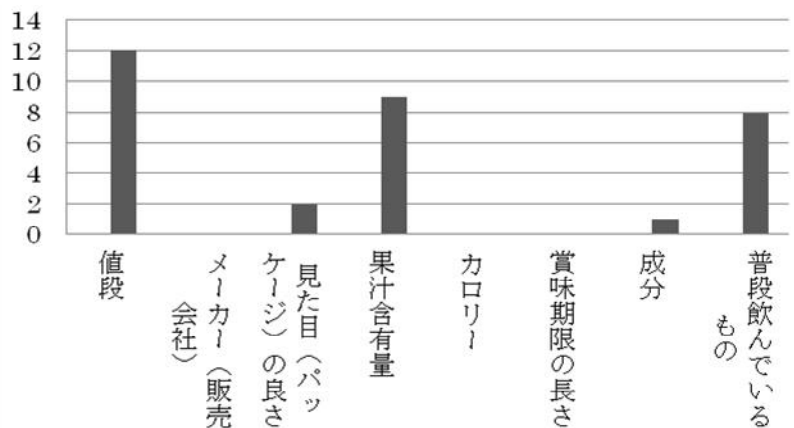
2. 食品添加物はどんなものか。（複数回答可）



3. 食品を購入する際、品質表示を見るか。



4. あなたはジュースを買う際、何を規準にして買うか。



6 本時

(1) 本時の目標

- ①食品に含まれている成分に目を向けさせ、食品添加物に関心をもたせる。【関心・意欲・態度】 (A)
- ②食品添加物の役割を知らせ、その役割について理解させる。【知識・理解】 (D)
- ③食品添加物が及ぼす身体への影響などを考察し、食品表示を見て食品を正しく選択できるようにさせる。【思考・判断・表現】 (B)

(2) 準備

教師…教科書，資料，学習プリント，計量カップ，マドラースプーン，プラスチックコップ，水，着色料（赤，黄），クエン酸，オレンジエッセンス，砂糖（スティックシュガー），市販のオレンジジュース（果汁100%），写真

生徒…教科書，ファイル，筆記用具

(3) 本時の実際

※評価欄の記号は（4）評価基準参照。

段階	配時	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入	7分	1 本時の学習内容の確認 ・食品表示について	・本時の学習内容を知る。 ・提示された食品表示について、原材料から食品添加物について考える。	・身近な商品を例に出し、食品表示について触れ、本時は食品添加物について学習することを知らせる。	(A)
展開	5分	2 食品添加物の用途 ・働きと目的	・今回実験で使用する食品添加物の種類と役割を学び、オレンジジュースの作り方を確認する。	・食品添加物の役割等やオレンジジュースの作り方の手順や留意点を説明する。	(D)
	20分	3 食品添加物を使ってオレンジジュース作り (1)自分で作ったジュースの分析 (2)果汁100%オレンジジュースと色、香り、味、価格を比較 (3)砂糖含有量	・班ごとに用意された材料を用いて、オレンジジュースを作る。 ・自分で作ったジュースを分析し、結果を学習プリントに記入する。 ・市販の果汁100%のジュースを、色、香り、味、価格、砂糖含有量の点で比較する。	・机間指導を行い、作り方がわからない生徒への指導、助言を行う。 ・実験の結果を学習プリントに記入させ、他の生徒の実験結果を聞くなど、意見交換をさせる。 ・今回作ったオレンジジュースと市販のジュースを比較させる。 ・砂糖含有量について、教科書の4つの食品群別摂取量の目安をもとに考えさせる。	(C) (B) (B)
	5分	4 食品添加物が身体に与える影響	・別紙資料（「食卓の向こう側」の『中食』）を読んで、感想を書く。 ・食品添加物が身体に与える影響について知る。	・机間巡視を行い、感想を確実に記入させる。 ・食品添加物を摂取することにより身体に与える影響についてポイントを絞って説明する。	(B, C)

	6分	5 今後商品選択をしていく際の課題と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 今後どのような商品選択をしていくべきか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の実験結果や資料をもとに、商品選択における自分の考えをまとめさせ、大きな声で発表させる。 	(B)
まとめ	7分	6 本時のまとめ (1)食品添加物から身を守る (2)自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめとして、食品添加物から身を守るためにはどうすれば良いかについて知る。その後、自己評価を行い、ファイルに綴じておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時で学んだことを確認させ、キーワードだけでなく補足説明のメモをとらせる。 机間巡視を行い、記入を確認し見届ける。 	(B, C)
		7 次時の予告及び後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 次時は食品添加物の種類と用途について学習することを知る。 片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 次時の予告を行い、後片付けの指示を行う。 	

(4) 評価基準

関心・意欲・態度 (A)	思考・判断・表現 (B)	技能 (C)	知識・理解 (D)
<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み方、説明を聞く態度がしっかりしている。 積極的に実験・実習に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果から理解したこと、考えたことを実生活に活かそうとする。 今後の食品購入について注意すべき点を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> オレンジ風味飲料を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品添加物の役割について理解できる。

LHR学習指導案

学校名： 鹿児島県立志布志高等学校
日 時： 平成 25 年 12 月 13 日(金) 2 校時
対 象： 2 年 1 組 37 名 (男子 22 名, 女子 15 名)
場 所： 2 年 1 組学級
授業者： 石山 弘二

1 主 題 学級ディベート

2 主題設定の理由

社会に出た際に必要とされる力のひとつにコミュニケーション能力があげられるが、一言でコミュニケーション能力といってもその実は、様々な要素で構成されている。今回行う学級ディベートでは、ただ単純に自分の考えを述べるのが目的ではなく、ある命題に対して、自身の意志に関わらず、肯定派・否定派に分かれて議論し、第三者である審判を説得することが目的である。対戦相手や審判の立場に立って事象を客観的に分析し、論理的に主張することで、審判を説得させなければならない。ディベートを通して、事象を多面的に捉える力、論理的表現力、相手の立場に立って事象を考察する力などのコミュニケーション能力の育成をねらいとして主題を設定した。

3 生徒の実態

本学級の生徒は、ほとんどが四年制大学への進学を考えている。三年 0 学期と言われる三学期を目前に控え、受験や将来の職業を意識しはじめた生徒が増えてきており、学習に対する意欲も増してきている。授業中やLHRなどでの発問に対しても、良く反応し、活発な意見を聞くことができるが、発問の本質を捉え、自分の意見として答えられる生徒はまだまだ少なく、相手へ伝えるという意識を持っていないのが現状である。

4 本時の目標

身近にある問題を論題として取り上げてディベートを行うことで、短い時間の中でも事象を客観的に捉えて、論理的に主張する力を身につけるとともに、肯定派・否定派・審判のそれぞれの立場からディベートに参加することで、他者の多様な考え方に触れさせ、他者理解の力を身につけさせたい。

5 評価の観点

自分の考えや意見を論理的に説明できているか。[技能・表現]

他者の考えを、客観的にとらえて理解することできているか。[思考・判断]

6 本時の展開

過程	学習活動（授業者○，生徒●）	指導上の留意点と評価
導入 5分	○ディベートのねらいと実施方法を説明する。 ●ディベートの流れ，ねらい，論題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを明確にし，次の留意事項を確認する。 ・他者の意見をしっかりと聞く。 ・全員が意見を出す。 ・客観的な意見を出す。 ・客観的に判断する。
展開 20分 20分	<p>○班ごとに分かれさせ，ディベートを行わせる。</p> <p>・論題（生徒のアンケートより）</p> <p>【高校生にスマートフォンは必要である】</p> <p>●1 試合目を行う。</p> <p>①役割ごとの話し合い(3分)</p> <p>②肯定派主張（2分） ③否定派主張（2分）</p> <p>④話し合い（2分） ⑤質疑応答（3分）</p> <p>⑥話し合い（1分） ⑦否定派反論（1分）</p> <p>⑧肯定派反論（1分）</p> <p>⑨審判協議・判定・理由説明（3分）</p> <p>○1 試合目の勝者チームから2チーム選出し，2 試合目を行わせる。残りの生徒は全員で審判をさせる。</p> <p>●2 試合目を行う。</p> <p>①～⑧は1 試合目と同じ</p> <p>⑨審判協議・集計（3分）</p> <p>⑩判定・総括（2分）</p> <p>●ディベートを終えた感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発言者に偏りがいないか，他者の意見をしっかりと聞いているか，意見や判断は客観的であるか確認する。 ・自分の意見を論理的に説明できているか。【表現・技能】 ・他者の考えを，客観的に捉え理解することができるか。【思考・判断】 ・2 グループを抽出し，その他の生徒は審判に回することで，議論を深めさせるとともに多様な考え方があつてことやそのよさに気づかせる。 ・感想を共有し合い，今後の学校生活に活かす視点を持たせるようにする。
まとめ 5分	○本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの事象に対して多種多様な捉え方，考え方があつてこと，論理的に主張することの重要性和難しさに気づかせる。

LHR 学習指導案

日 時 平成 25 年 11 月 5 日 火曜日 6 校時
対 象 普通科 1 年 3 組 32 名
場 所 3 棟 2 階 1 年 3 組 教室
指 導 者 藤野 聡美

1 主 題

「SNS によるコミュニケーションの在り方について考えよう」

2 学習指導要領との関連

第 5 章 特別活動

2 ホームルーム活動の内容

(2) 適応と成長及び健康安全

オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立

情報化の進展など社会の急速な変化の中で、青少年の人間関係の希薄さや他人に共感して思いやる心の弱さなどが指摘されている。それがいじめや暴力行為などの問題行動や不登校などの一つの要因となっていることに留意し、高校生段階においても、人間関係を形成する力や自己表現力、他者への思いやり、正義感、連帯感や協力心などを育む取組を積極的に進めていく必要がある。また、グローバル化が進み、国や社会の間を情報や人材が行き交い、相互に複雑に関連する中では、対話を重ねつつ、他者や社会、自然や環境と共に生きる、積極的な「開かれた個」であることが求められる。社会的な自立を目指そうとする高校生段階から、コミュニケーション能力の育成と多様な人間関係の確立は重要な課題であり、他者の言葉や意見に耳を傾け、自分の考えや思いを適切に表現する力、様々な集団において望ましい人間関係を築く力を高めることが求められている。

3 主題設定の理由

近年携帯電話が普及したことで、子どもたちを取り巻く環境は劇的に変化している。また、離れていても見知らぬ人と瞬時につながる世界は、生身の人間関係や日常生活に支障をきたす。ここ数年でスマートフォンが急速に普及し、インターネットや SNS 等の利用がこれまで以上に便利になった反面、対人トラブルや依存症の問題を抱えるケースも少なくない。今年度の教育相談で、一部の生徒が SNS のやりとりの中で友人関係のトラブルを経験したことがあるとわかった。

そこで、本時は SNS によるコミュニケーションの在り方について考えさせ、文字によるコミュニケーションは相手を思いやる気持ちが大切であるということを確認させたいと思い、この主題を設定した。

4 生徒の実態

本クラスの生徒は、授業中比較的静かな雰囲気があるが、教師の発問に対する反応はよい。

アンケート調査によると、「あなたは自分専用の携帯（またはスマートフォン）を持っていますか。」という質問に対し、「はい」と答えた生徒が 32 名中 30 名（94%）、「いいえ」と答えた生徒が 2 名（6%）、だった。また「あなたは SNS（Facebook、ツイッター、LINE、mixi、チャットなど）を利用したこ

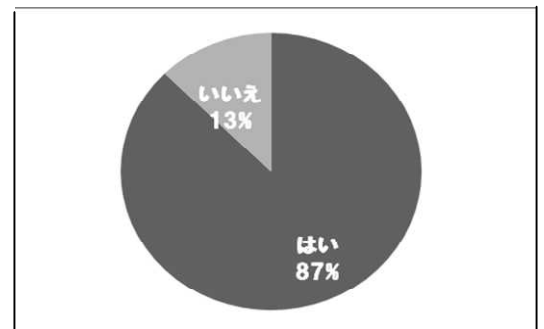
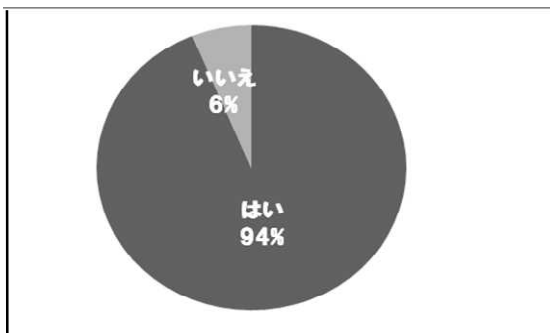
とがありますか。」という質問では、「ある」と答えた生徒が28名（87％）で半数以上を占めていた。さらに、「SNS でトラブル（悪口を言われたり、仲間はずれ等）に巻き込まれたことがありますか。（ただし、

前の質問で「はい」と答えた人のみ回答）」という質問では、「はい」が6名（21％）いることがわかった。「もし、あなたの友人がトラブルに巻き込まれているのを知ったとき、あなたならどのような行動を取りますか。」という質問では、「その友人の相談に乗る」という回答が最も多く、24名（75％）、次に「親や先生などの大人に報告し相談する」が5名（16％）、「何もしない」が3名（9％）という結果で、「トラブルの原因となっている人に直接行動を起こす」と答えた生徒は1人もいなかった。

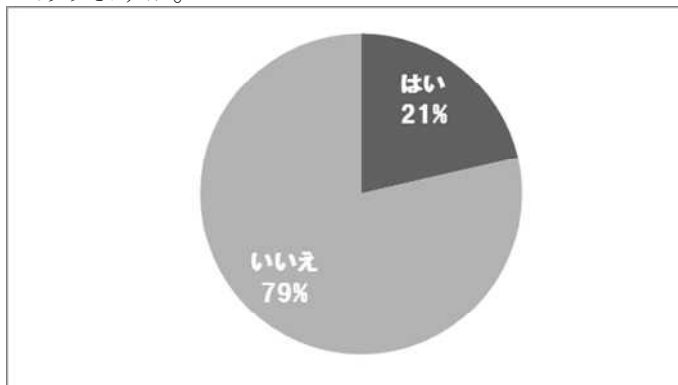
以上のことを踏まえ、本時では SNS によるコミュニケーションの在り方やトラブル発生時の対処等について考えさせ、具体的にどのようにすべきかについて考えさせるとともに、相手を思いやるコミュニケーションの大切さを認識させたい。

〈アンケート結果〉

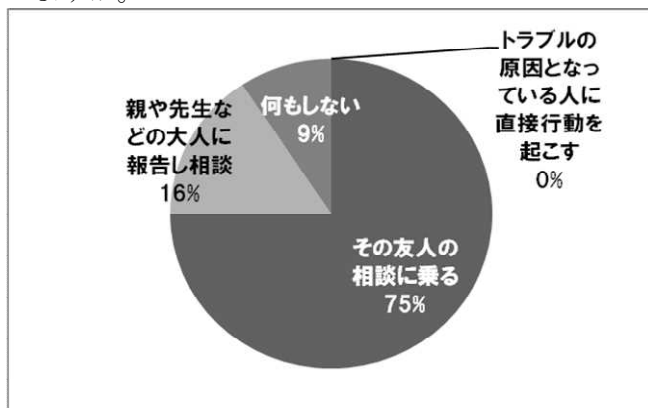
1. あなたは自分専用の携帯（またはスマートフォン） 2. あなたは SNS を利用したことがありますか。
 を持っていますか。



3. （2で「はい」と答えた人のみ回答）SNS でトラブル（悪口、仲間はずれ等）に巻き込まれたことがありますか。



4. もしあなたの友人がトラブルに巻き込まれているのを知ったとき、あなたならどのような行動を取りますか。



5 本時の実際

(1) 本時の学習目標

- ア 授業に積極的に参加し、意欲的に取り組むことができるようにさせる。
- イ SNS の望ましいコミュニケーションの在り方について考えさせ、理解を促す。
- ウ 今後、相手の気持ちに配慮したコミュニケーションができるようにさせる。

(2) 本時の展開

段階	配時	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導 入	6分	1 本時のねらいと活動内容の確認 (1) ノンバーバルコミュニケーションについて (2) 普段とっているコミュニケーションについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2人1組でノンバーバルコミュニケーションを行い、相手の気持ちは何から伝わるかについて考える。 ・ 自分が普段、どのように人とコミュニケーションをとっているか想起する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノンバーバルコミュニケーションのテーマを「中間考査の結果が返ってきた時の気持ち」に設定し、30秒間相手に伝えさせる。 ・ 上記を通して、相手の気持ちは表情や言葉から伝わるということに気付かせ、本時のねらいを導き出す。 	ア
	8分	2 SNS トラブルの事例 (1) 文字で受けた時の気持ち (2) 口頭で言われた時の気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2人1組で SNS の事例のセリフを読み合い、文字で受けとった時の気持ちと口頭で言われた時の気持ちを比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロールプレイングを行う際は相手の目を見てしっかり言うことや、登場人物になりきって言う点に留意させる。 ・ 文字で表現される場合と直接顔を見て言われる場合とでは、受け取る側の気持ちに違いがあるか考えさせ、プリントに記入させる。 	ウ
開	6分	3 相手を傷つける表現について	<ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ人を傷つけることを SNS を通して表現する人がいるのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えをまとめさせた上で、周囲の生徒と意見交換させる。 ・ 記入できていない生徒に対して机間巡視を通し、助言を行う。 	ア、イ
	22分	4 SNS でのコミュニケーションの在り方 (1) トラブルが起こった時の対処 (2) 配慮すべき点	<ul style="list-style-type: none"> ・ トラブルが起こった際、どのような行動をとるべきかについて考える。 ・ SNS でコミュニケーションをとる際、どのような点に配慮すべきかについて考える。 ・ グループで話し合い、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が被害者の場合と、友達が被害者の場合で考えさせる。 ・ 自分の考えを記入させ、グループで意見交換をさせる。 ・ 発表させる際は、人の意見を聞く態度をしっかりとらせ、他の人の意見を共有させる。 	ア イ エ
ま と め	8分	5 本時のまとめ ・ SNS を使用する際の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南日本新聞の『つながりたい①』を読んで、SNS を使用する際の責任について知る。 ・ 授業を通して考えたことや感じたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想を記入させ、意見交換させる。 ・ 相手の気持ちを考え、思いやりをもった表現の大切さを認識させる。 	エ

(3) 評価

- ア 授業に積極的に参加し、話し合いに意欲的に取り組むことができたか。【関心・意欲・態度】
- イ 多角的に考えることができたか。【思考・判断・表現】
- ウ 設定になりきったロールプレイングをすることができたか。【技能】
- エ 他の人の意見を受け止め、SNS での望ましいコミュニケーションの在り方について理解を深めることができたか。【知識・理解】

平成25年（1月～12月）の記録

1 学校行事及び特記事項

【1月】

- 4日（金）～7日（月） 冬季課外（3年）
- 8日（火） 始業式，課題考査（1・2年）
- 9日（水） 課題考査（1・2年）
- 12日（土） 土曜講座（3年），進研模試（1，2年）
- 13日（日） 進研模試（2年）
- 15日（火） 自立支援相談員来校
- 17日（木） 第9回英単語グランプリ，3年センター試験受検者説明会
- 19日（土）～20日（日） 大学入試センター試験（120名受験）
- 21日（月）～25日（金） 普通科修学旅行（2年）関西方面：
生徒131名，引率7名
- 25日（金） 進路検討会（3年）
- 28日（月）～2月8日（金） 教育相談
- 28日（月） 自立支援相談員来校

【2月】

- 1日（金） 朝課外再開，第3回漢字検定
- 2日（土） 河合全統模試（1・2年），公務員模験（2年）
- 4日（月） 大掃除，自立支援相談員来校
- 5日（火） 推薦選抜試験
- 7日（木） 小論文模試（1・2年），消費者講座（3年）
- 8日（金） 第10回英単語グランプリ，インドネシアから JICA 青年研修教員一行
計15名本校視察
- 14日（木） 第2回PTA理事会，先輩に学ぶ会（1・2年）
- 19日（火）～22日（金） 学年末考査
- 19日（火） 業者による消防設備点検 学力検討会（1年）
- 20日（水） 学校保健委員会，衛生委員会
- 22日（金） 第3回学校評議員会
- 23日（土） 放送設備点検
- 24日（日） 第3回英検二次
- 25日（月） 自立支援相談員来校，1年学力検討会
- 26日（火） 第2回高体連会議
- 28日（木） 同窓会入会式・表彰式，英語科閉科式

【3月】

- 1日（木） 第65回卒業式
卒業生数：170名（男子85名，女子85名，
内英語科男子4名，女子16名）
- 6日（水）～7日（木） 学力検査

- 13日(水) 自立支援相談員来校
 14日(木) 合格者発表, 鹿児島大学水産学部練習船「南星丸」見学会
 15日(金) 合格者集合, 第11回英単語グランプリ
 18日(月) 2年学力検討会
 23日(土) TOEIC I Pテスト
 25日(金) 修了式
 28日(木) 離任式
 学校長: 精松 和成(退職) 国語: 徳留 鑑一(大島)
 数学: 重信 真吾(大島北) 数学: 八木 裕子(開陽通信)
 数学: 岩崎 恭(鹿屋農) 英語: 東丸 直哉(錦江湾)
 英語: 野間口 奈々美(国分) 実習助手: 和田 真衣(退職)
 用務員: 岩下 和樹(中種子養護)

【4月】

- 8日(月) 新任式, 始業式, 課題考査(2・3年)
 学校長: 森永 徳雄(串木野) 数学: 境 智明(鹿屋)
 数学: 中村 英作(鹿児島東) 英語: 宮崎 聡(鶴翔)
 実習助手: 山口 真理子(出水) 校務補助員: 青山 修三
 校務補助員: 小玉 勢里香
 9日(火) 第67回入学式
 入学者数: 普通科 132名(男子61名, 女子71名)
 10日(火) 課題考査
 11日(水) 対面式, 身体測定
 12日(金) 避難訓練(津波を想定し, 高台へ避難)
 16日(火)～25日(木) 家庭訪問(1年), 三者面談(2・3年)
 19日(金) クレペリン検査(1・2年)
 26日(金) 志布志湾遠行(1・2年), 一日遠足(3年)

【5月】

- 8日(水) PTA代議員会
 8日(水)～10(木) 地区高体連大会中心日, 特別時間割
 14日(火)～16日(木) 中間考査
 15日(水) PTA総会
 19日(金) OB講演会 講師: 天野 正宏氏(宮崎大学医学部准教授 本校昭和50
 年第30回卒) 演題: 「医療系学部をめざしませんか？」
 20日(月) 教育実習開始(3週間)(～7日(金))
 数学(1人), 保健体育(1人), 家庭(1人)
 22日(水) PTA総会報告会
 24日(金) 生徒総会
 26日(日) 音楽部第11回定期演奏会(於 志布志市文化会館)

【6月】

- 4日(火) 救急救命講座(1年)

- 5日(水) 第1回中高連絡会, PTA地区代議員会, PTA懇親会
 6日(木) 学年弁論大会
 7日(金) 生徒会役員選挙立会演説会(生徒会長:城之尾 みさき(2年1組))
 14日(金)~15日(土) 第65回文化祭
 「僕らでえがこう 新しい希望(ひかり) 全力でつかもう
 この瞬間(とき)を」
 弁論大会:最優秀賞 白鳥 祥子「メディアに飼われる」
 優秀賞 杉元 珠菜「あなたの手」
 1年英語暗唱大会:第1位 武石 拓真,
 第2位 政井 涼花
 第2位 三枝 瑠唯
- 19日(水) 曾於地区生徒指導研究協議会
 21日(金) 進路講演会(講師:ベネッセコーポレーション 劉 耕助氏)
 演題:「希望進路実現のために」
 26日(水) スクールカウンセラー来校
 27日(木) 3年統一LHR(進路保障)
 28日(金) 交通安全教室

【7月】

- 1日(月)~7月4日(木) 期末考査
 1日(月)~2日(火) 3年進路検討会
 4日(火) PTA研修視察, 学校保健委員会, 衛生委員会
 8日(月) 生徒会役員任命式, 単車免許取得希望者集会
 9日(火) 水泳大会
 10日(水) 単車免許取得希望者集会
 11日(木) 小論文ガイダンス(1・2年講師:海老原 恵子(第一学習社))
 (3年講師:中村まゆみ(桐原書店))
 13日(金) 学校関係者評価委員会
 14日(土) 薬物乱用防止キャンペーン開会式, 閉会式, PTA懇親会
 16日(火) クラスマッチ
 18日(木) スクールカウンセラー来校
 19日(金) 耐震工事に係わる移動(3棟西側)
 1・1→演習室①, 1・2→演習室②, 生徒指導室→物理準備室
 終業式, 性教育講話
 講師:梶 真由美氏(志布志市役所保健課保健対策係)
 演題:「将来の自分のために~高校生のための性教育~」
 単車実技講習会(於 シブシ昭和自動車学校)
 22日(月)~31日(水) 夏季課外
 22日(月)~三者面談(3年), 地区PTA(26日(金))まで

【8月】

- 2日(金) 中学生一日体験入学

入学者：201名（保護者3名）

内容：学校紹介ビデオ放映，在校生の話，体験授業，体験入部等

- 3日（土） 同窓会総会（松蔭会）
- 19日（月）～27日（火） 夏季課外
- 19日（月）～21日（水） 2年3組英語コースサマーセミナー（鹿屋市）
- 23日（金） 第5回中学生英語スピーチコンテスト（本校主催），志布志市文化会館
三土会（母親学習会）
- 24日（土） PTA草刈り奉仕作業
- 28日（水）～29日（木） 課題考査
- 29日（火） 職員研修（進路指導）

【9月】

- 2日（月） 始業式，いじめ問題に関する統一LHR
- 7日（土） 第66回体育祭 テーマ「Friendship & pride ～勝利をつかむ心のバトン～」（競技（2年生）・応援・マスコット（3年生）優勝）
- 11日（水）～24日（火） 教育相談
- 18日（水） いじめ問題等相談員派遣事業，職員研修（教育相談）
- 26日（木） 志高カレッジ：安田女子大学，近畿大，宮崎大学，鹿児島純心女子大学，
志学館大学，熊本保健科学大
- 27日（金） サイバーセキュリティカレッジ

【10月】

- 2日（月） スクールカウンセラー来校
- 16日（水）～18日（金） 中間考査
- 21日（月）～25日（金） スタディー・ウィーク（1年）
- 24日（木） スクールカウンセラー来校
- 31日（水） 実力考査（1・2年）

【11月】

- 1日（金）～7日（木） 県民教育週間に伴う授業公開
- 1日（金） 一斉読書会（LHR）
- 5日（火） 第2回中高連絡会
- 6日（水） 実力考査（1・2年）
- 11日（月） 学力向上公開授業（発表者：国語科 山之口 輝美・数学科 福田 大樹）
- 13日（水）～14日（木） 職場体験学習（1年）

あすばる大崎，安楽保育園，いぶき整骨院，大隅中学校，大崎町立図書館，覚照保育園，大崎幼稚園，香月小学校，カトリック志布志幼稚園，鹿屋市役所（総務課），榎島津楽器，KKスポーツ，ケーズデンキ志布志店，国民宿舎ボルベリアダグリ，寿スポーツ，下町調剤薬局，志布志学校給食センター，志布志警察署，志布志市役所本庁，志布志市立図書館，志布志保育園，志布志まちづくり公社アピア，志布志郵便局，志布志保育園，しぶし整骨院，SUMOMO（ほとや製菓），全日本空輸株式会社鹿児島空港所，曾於市立図書館，タイガースポーツ，太陽薬局，チャレンジスポーツ，手塚クリニック，藤後病院，トヨタカローラ志布志店，

志布志消防署，ニシムタ志布志店，原口学園志布志幼稚園，ひばり保育園，ひら動物病院，びろうの樹・脳神経外科・整形外科，ファッションセンターしまむら，陽春堂内科診療所，若潮酒造株式会社，FM志布志，ヘヤーガーデン dress

- 15日(金) ロードレース大会
- 16日(土) 地震・津波を想定した避難訓練実施(土曜講座中1・2年)
- 20日(水) スクールカウンセラー来校
- 21日(木) 芸術鑑賞会(於:本校体育館) 演劇:「東京演劇集団風」
ライル・ケスラー原作，西垣耕造演出による『Touch～孤独から愛へ』
- 22日(金) 学力向上公開授業(発表者:英語科 宮崎 聡)

【12月】

- 3日(火)～6日(金) 期末・卒業考査
- 3日(火) 1学年PTA
- 5日(木) 2学年PTA
- 5日(木)～6日(金) 3年進路検討会
- 6日(金) 防災訓講話 鹿児島大学大学院理工学研究科 浅野 敏之教授
演題「津波のメカニズムと離島を含む本県沿岸の津波の歴史」
- 9日(月) 耐震工事に係わる復旧移動(3棟西側)
演習室①→1・1, 演習室②→1-2, 物理準備室→生徒指導室
- 9日(月)～10日(火) 米国高校生来校
- 13日(金) 統一LHR(性教育)
- 17日(火) クラスマッチ
- 18日(水) スクールカウンセラー来校
- 20日(金) 統一LHR(人権同和教育)
- 24日(火) 終業式, 進路内定者集会
- 25日(水) 学習状況説明会
- 25日(水)～27日(金) 冬季課外, 3者面談(3年)

2 職員研修等

(1) ステップアップ研修

- 石山 弘二教諭(数学) 年間研修計画に基づいて研修
- 藤野 聡美教諭(家庭) 年間研修計画に基づいて研修

(2) パワーアップ研修

- 下山 慎吾教諭(保健体育) 年間研修計画に基づいて研修
- 吉村 奈緒子教諭(音楽) 年間研修計画に基づいて研修

(2) 校内研修

- 9月18日(水) 「知的障害・発達障害等のこどものこころを感じる, 楽しむ」
講師:小田 真奈美氏(鹿児島純心女子大学国際人間学部こども
学科講師, 本校スクールカウンセラー)
- 8月29日(木) 「進路実現にむけて」
講師:劉 耕助氏(ベネッセ:鹿児島高校事業部)

3 生徒会活動（平成24年度は明記，なしは全て平成25年度実施）

（1）体育部

○ 地区大会 主な成績

・春季大隅地区大会

- ・男子バレーボール部 優勝
- ・男子ソフトテニス部 団体第3位 個人戦 第1位（上山 廉，牧野 英成）
- ・女子ソフトテニス部 団体第3位
- ・陸上部
 - 男子フィールドの部 第3位
 - 女子フィールドの部 第3位
 - 男子やり投げ第1位 伊佐 頼河，女子走り幅跳び第1位 木幡 千星里
 - 男子400mハードル第2位 原口 琢朗，女子やり投げ第2位 篠田 有希乃
 - 男子やり投げ第2位 津曲 浩太，男子5000メートル原口 琢朗
 - 女子走り高跳び第3位 丸目 愛，男子400mハードル第3位 津曲 浩太
 - 女子4×100mリレー第3位，（柳井はるな，白鳥康代，今福真理，牧野彩夏）
- ・サッカー部 第3位
- ・野球部 優勝

・秋季大隅地区大会

- ・女子バトミントン 優勝
 - 共通の部 個人戦ダブルス第2位 中原聡子，上村晴菜
 - 共通の部 個人戦ダブルス第3位 上檔ほなみ，植村莉帆
- ・男子ソフトテニス部 団体準優勝，
- ・女子ソフトテニス部 団体準優勝
- ・弓道部女子 団体第2位 個人第2位 渡 瑛子
- ・サッカー部 優勝

○ 鹿児島県大会 主な成績

- 女子ソフトボール部（串良商業高校との合同チーム）：県新人大会3位
- バトミントン部・新人大会 1年の部 ダブルス 第3位 上檔ほなみ，植村莉帆
- 卓球部：新大会シングルス ベスト16 森 貴昭
- 男子ソフトテニス部：県新人大会 男子団体 ベスト8
- 水泳部：
 - ・鹿児島県高等学校春季水泳競技大会
 - 女子50m平泳ぎ第1位 池宮 早耶
 - 男子100m自由形第2位 下柿元 樹
 - 男子200m自由形第2位 下柿元 樹
 - 男子100mバタフライ第3位 有嶋 貴裕
 - ・鹿児島県高校新人水泳競技大会
 - 男子100mバタフライ第3位 有嶋 貴裕
 - 男子200mバタフライ第2位 有嶋 貴裕

（2）文化部

- E S S 部：・第 6 回鹿児島純心女子大学スキットコンテスト高校生の部 特別賞
「Team Juma」 草野 章人，川津 愛，杉元 珠菜
- 書道部：・平成 24 年度第 51 回ひな祭り書道展南日本書道会賞 和田 友希菜
南九州新聞社賞 益村 千夏
- ・曾於・肝属地区高等学校揮毫大会準大賞 田中知世
高文連賞 櫻木さやか，益村千夏，今福真理
- 美術部：・第 64 回鹿児島県高校美術展奨励賞 日高 綾乃
入 選 中西 志帆，時見 莉央，富田 真由，本高 花南子
- 音楽部：第 40 回記念鹿児島県吹奏楽ソロコンテスト金賞 川原田 倫
最優秀伴奏者賞 木村 莉子

(3) 受賞等

- ・平成 24 年度日本バッハコンクール in NAGASAKI 優秀賞 林 亜華里
- ・平成 24 年度第 26 回 感動作文コンクール優秀賞 新納 瑞生
感動作文コンクール佳作 諏訪 文哉，松田 瑞季
- ・平成 24 年度第 58 回青少年読書感想文全国コンクール県審査入選 西国原 聖弥
- ・平成 24 年度いきいき教育活動表彰 山口 観弘
- ・平成 24 年度鹿児島県高等学校体育連盟賞 山口 観弘
- ・平成 24 年度日本バッハコンクール全国大会奨励賞（ピアノ）・ベスト賞
林 亜華里
- ・平成 24 年度第 7 回大隅地区高等学校ソロ・アンサンブルコンテスト
ピアノソロ部門金賞 林 亜華里
管弦楽打楽器アンサンブル部門木管三重奏
北野 みずき，森岡 香奈，酒匂 美里
- ・平成 24 年度第 37 回ピティナ・ピアノコンペティション西村賞 林 亜華里
- ・平成 24 年度感動作文コンクール佳作 木幡 彩那
- ・平成 24 年度第 4 回志布志市「志」エッセイコンテスト志特別賞 横川 未希
優秀学校賞（志布志高校は団体として受賞）
- ・平成 24 年度英単語グランプリ
3 年 田中 勇介，西 恵佳，鈴木 紅美，永野 隆徳，坂元 みずき，新納 光貴，
山下 千夏，鉾立 宅治，竹内 翔馬，岡本 光正
2 年 黒木 信一郎，竹之下 弥生，白鳥 翔子，西村 正慧，高岡 玲佳，
加納 愛梨，東 拓弥，谷口 嗣幸，宝田 歩未，中西 亮太，池之上 愛，
山本 智之，八木 由佳，豎山 莉沙子，松元 涼夏，
1 年 城之尾 みさき，益村 千夏，田原 知佳
- ・平成 24 年度実用英語技能検定 2 級合格
前田 論平，西村 正慧，加納 愛梨，木幡 彩那，白鳥 翔子，竹之下 弥生
豎山 莉沙子，領家 さくら
- ・「小さな親切」作文コンクール学校奨励賞 高岡玲佳
特選 迫圭太，時見莉央，高岡玲佳

- 入選 久木山詩織, 留中真鼓, 加納愛梨 竹之下弥生
- ・ 実用英語技能検定合格
 - 準1級 内山みき (10年ぶりの合格者)
 - 2級 門倉ななみ, 出水美帆, 中西未希, 山下冬美, 和田友希奈
 - ・ 平成25年度 校内水泳大会
 - 新記録 男子学年対抗リレー 3学年男子 2分04秒54
 - 女子学年対抗リレー 2学年女子 2分43秒93
 - 女子25m自由形 山口 楓 14秒49
 - 男子50m背泳ぎ 下柿元 樹 13秒24
 - ・ 日本バツハコンクール in MIYAZAKI 優秀賞 林 亜華里
 - ・ 県作文コンクール特選 加納 愛梨
 - 入選 富田 真由, 船田 智之
 - ・ 平成25年度 税に関する高校生の作文コンクール大隅税務署長賞 園田 茜
 - ・ 第7回全国高校生歴史フォーラム佳作 西村 正慧
 - ・ 校内読書週間 標語・POPコンクール
 - 標語の部 中西 志帆, 和田 彩乃, 益村 千夏, 中村 泰介, 山崎 恵実
 - POPの部 横川 未希, 隈元 かりな, 塗木 健二, 日高 綾乃

4 大学等合格状況 () 内は平成23年度

国公立大学 35名(27) 私立大学 133名(71) 準大学校 1名(1)
 国公立短大 1名(1) 私立短大 16名(13) 準短期大学校 1名(1)
 医療系専修学校 23名(17) その他の専修学校 27(19) 就職 8名(6)

5 主な刊行物

研究紀要 「松径」第21号
 新聞 P T A新聞「青松」
 文集 「濤声」第310号
 同窓会報 「松蔭会同窓会便り」
 志布志高校便り 117号～127号
 校内報等 進路指導部：進路指導部だより「A・C・GO！」
 図書委員会：「松蔭」第35号, 「図書館だより」
 保健委員会：「保健だより」
 生徒指導部：生徒指導部便り「～叡・志・剛～」

編集後記

研究紀要『松径』第22号発刊のはこびとなりました。

日々の多忙な教育活動の中、執筆を快くお引き受け下さった先生方や、本誌発行に際してご協力いただきました皆様方に心から感謝申し上げます。

編集に際しましては十分に注意したつもりですが、不備な点等がございましたら何卒ご容赦下さい。

この研究紀要『松径』第22号が、多くの先生方の今後の教育活動の参考となれば幸いです。

研究紀要『松径』第22号

発行日 平成26年3月

発行者 鹿児島県立志布志高等学校長 森永 徳雄

発行所 鹿児島県立志布志高等学校

〒899-7104

鹿児島県志布志市志布志町安楽178

電話 (099) 472-0200

編集 志布志高校教務部研修係